

住と建築 4

開催にあたって	社団法人全日本建築士会 会長 佐藤 理	2
L'organisation du Colloque Franco-Japonais sur le Paysage à Ise		
SATO Osamu, président de ZenNihonKenchikushiKai		
会議経過について	日仏景観会議伊勢 実行委員長 柳生正雄	4
Programme du Colloque		
YAGYU Masao, Comité d'Exécution du Colloque		
伊勢神宮について	神宮式年造営庁技術総監 中村光彦	8
Temple d'Ise et sa reconstruction		
NAKAMURA Mitsuhiko, Chef du Conseil Technique pour Gosengu		
伊勢市の景観に関する取組み	伊勢市市長 鈴木健一	12
Politiques paysagères de la Ville d'Ise		
SUZUKI Kenichi et al.		
式年造替について	(財)明治村館長 名古屋大学名誉教授 飯田喜四郎...	16
Reconstruction périodique du Temple d'Ise		
IIDA Kishirou, président de Meiji-mura		
地域の精神の価値	前パリソルボンヌ大学総長 ジャン・ロベール・ピット...	20
L'esprit de lieu		
J-R PITTE		
伊勢-空間の聖化	早稲田大学教授 中川 武	36
Ise, sacralisation d'espace		
NAKAGAWA Takeshi, professeur de l'Université Waseda		
討論会 伝統から未来		43
Discussion au Séminaire à Tokyo Tradition et Futur		
山田工作所の見学	本部理事 石井 隆	47
Visite d'étude de l'Atelier à Yamada de Gosengu		
ISHII Takashi, conseiller, ZenNihonKenchikushiKai		
世界に共有すべき価値のために	NPO日仏景観会議代表 宇田英男	52
Valeur à Partager avec le Monde		
UDA Hideo, représentant, NPO Colloque Franco-Japonais sur le Paysage		
(社)全日本建築士会の歩み		53
Sur ZenNihonKenchikushiKai		

【表紙】

第62回神宮式年遷宮に先立ち、平成21年11月3日新しく架け替えられた宇治橋。

le Pont Uji rebâti le 3 novembre 2009 précédant la 62^{ème} reconstruction périodique du temple d'Ise

開催にあたって

L'organisation du Colloque Franco-Japonais sur le Paysage à Ise

社団法人全日本建築士会 会長 佐藤 理

SATO Osamu, president de ZenNihonKenchikushiKai

現存世界最古の木造建築法隆寺を始め、1000年以上の歴史を持つ神社仏閣が日本各地に現存し、日本の風土、環境に適した建材の木材を使用してきたこと、また木に神が宿るとする降臨信仰、木材にたいする日本人の心、木を扱う匠の技量の深さが大きく影響しているといえるでしょう。木造建築文化、技術・技能の継承・発展は、当会活動の原点と位置づけられるものでもあります。

昭和33年に設立された当会も、平成20年に50周年を迎え、記念事業として、NPO法人日仏景観会議との共催により、日仏景観会議－日光・田母沢－が開催され、「木造伝統建築文化の継承と発展」をテーマに有意義な会議となりました。

それを引き継ぐ形で、平成21年の日仏景観会議－伊勢－は、「伝統から未来へ」としてNPO法人日仏景観会議との共催、フランス大使館の多大なご協力を得て開催されました。690年持統天皇時代に始められた伊勢神宮の式年遷宮は、1300年にわたり粛々と行われ、平成25年に第62回を予定されており、そのための諸祭、行事が平成17年より始まり、昨年は宇治橋も建替えられました。

世界的に見ても特異なこの行事を4年後にひかえ、伊勢会議では伊勢市長鈴木健一氏のご協力により伊勢市観光文化会館で、「伝統と地域性」の主意に基づき、神宮式年遷宮庁技術総監中村光彦氏の基調報告に続き、明治村館長飯田喜四郎氏、フランスから前パリ・ソルボンヌ大学総長ジャン・ロベール・ピット氏の講演のあと、シンポジウムが行われ、

Nous employons bois pour bâtir depuis l'antiquité aussi pour la construction des grands temples shintoïstes et bouddhistes comme Horyu-ji, le plus ancien patrimoine bois du monde. Cela provient sans doute de notre vieille vénération de l'arbre comme demeure divine, aussi que de notre affection pour bois comme matière vie quotidienne et de la perfection technique des maîtres charpentiers. La transmission et le développement de la culture de construction bois est l'objectif le plus important de notre association.

Pour fêter le 50^{ème} anniversaire de notre association, nous avons organisé le Colloque à Nikko-Tamozawa sur le thème de « la transmission et le développement de la culture de construction bois » en collaboration avec NPO Colloque Franco-Japonais sur le Paysage et sous le haut patronage de l'Ambassade de France.

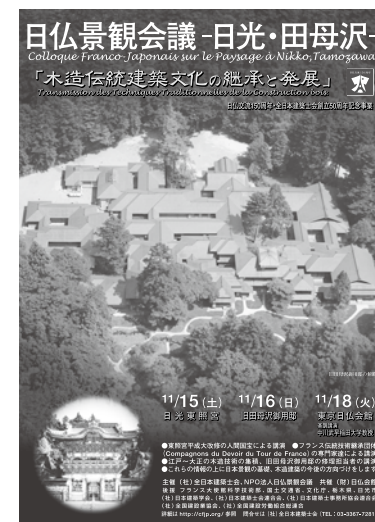
Cette fois, sur la même forme de l'organisation, le Colloque à Ise a été organisé, en vue de la 62^{ème} gosengu (reconstruction) du Temple d'Ise en 2013, coutume unique au monde, sur le thème de « Tradition et Futur », avec les conférenciers français et japonais, visitant ensemble le Temple d'Ise, la ville et l'atelier pour gosengu, qui a été suivi par le Séminaire à

翌日、伊勢神宮と式年遷宮工作所の見学が行われて、1300年の歴史、伝統の深みを目の当たりにし、その意味を考えさせられることとなりました。

また会場を東京に移し、総合学術センターで行われた東京会議では、伊勢での会議の報告に引き続き「伝統とまちづくり」の主意に基づき、先のピット氏、また早稲田大学教授中川武氏の講演が行われました。その後パネリストと会場参加者を交え討論会も活発に行われ、3日間の会議は成功裏に終えることができました。

地球温暖化などの自然の影響をダイレクトに受ける建造物、特に木造建築を考えるときに、こののちは、その問題が深刻化していくと思われます。例えば式年遷宮という形態の伝統の保全においても、日本の特異であるとせず、世界中どこでもその土地が唯一の地域性となり、その地域ごとの固有の価値観が在ることをまず認めるべきでしょう。その上で今後その保全・伝統遺産の継承などは、世界レベルでしっかり共有する事が必要となると考えます。

私どもは幸せなことに、新旧の融合をみごとにし、美しい街並みを保持するフランスの例を伺う機会を得たことで、この事を大切にしながら両国の交流が永続し、共に発展しつづけることを強く信じます。



Tokyo, visant à discuter aussi l'aménagement urbain d'Ise.

Pour lutter contre le méfait de réchauffement de terre, le bois est un important élément clé. Il nous faut saisir non seulement le sens de gosengu, mais aussi chercher son message important pour mettre en valeur la particularité de chaque lieu sur la Planète et de le faire la base solide pour assurer la conservation et la transmission de nos traditions.

Nous avons bonheur de communiquer avec la France qui maintient le beau paysage sur l'ancien et le nouveau, et espérons que cette liaison va être plus renforcée.

Colloque Franco-Japonais sur le paysage à Ise

日仏景観会議 伊勢

伝統から未来へ Tradition et Futur

第1部 ー伊勢ー 伝統と地域性

2009年12月20日(日)
13:30～17:00 シンポジウム
会場:伊勢市観光文化会館

講演
別府治村館長 名古屋大学名誉教授
飯田 喜四郎
前パリ・ソルボンヌ大学総長
ジャン・ロベール・ピット

2009年12月21日(月)
9:30～15:00
伊勢神宮、式年遷宮工作所見学

第2部 ー東京ー 伝統とまちづくり

2009年12月23日(水)
9:30～17:30 シンポジウム
会場:総合学術センター

講演
前パリ・ソルボンヌ大学総長
ジャン・ロベール・ピット
早稲田大学教授
中川 武

主催:社団法人全日本建築士会 NPO法人日仏景観会議
共催:伊勢市 伊勢市会館
後援:国土交通省 文化庁 フランス大使館 三重県 北日本建築学会 北日本建築協会 北日本建築士会連合会
北日本建築士事務所協会連合会 花巻建築協会 出雲建築協会 出雲建築士会連合会
東フィンランド省 日刊建設工業新聞社
問い合わせ先:全日本建築士会(TEL:03-3367-7281)

会議経過について

Programme du Colloque

日仏景観会議伊勢 実行委員長 柳 生 正 雄
YAGYU Masao, Comité d'Exécution du Colloque

日仏景観会議伊勢（伝統から未来）については、12月20～21日第1部伊勢会議、23日第2部東京会議に、年末のご多忙中にもかかわらずに381名の多数方に参加をいただき成功裡に終了することができました。

日仏景観会議開催に御協力いただいた関係団体¹・関係者²、会員及び会議参加の皆様には謝意を表します。

2008年11月に、社団法人全日本建築士会創立50周年記念事業とし、日光東照宮はじめ関係者皆さんのご協力により、日仏景観会議「日光・田母沢」を「木造伝統建築文化の継承と発展」を主題に開催しました。

第1部を日光東照宮（御祭神徳川家康公400年式年祭（2016年）に向けて平成の大修理現場と特別拝観）と田母沢（旧田母沢御用邸江戸・明治・大正の建築様式復元工事の研修）を日光で、第2部日仏会館（東京）で、フランスの匠建築代表団の参加を得て、開催し有意義な会議であったと好評を頂きました。

今回多くの会員より「日仏景観会議」の継続開催の要望があり、「日仏景観会議 伊勢」実行委員会を設置し対応しました。

日本の伝統建築の原点ともいえる伊勢神宮式年遷宮（2013年）を前にして、伊勢神宮の全面的協力の基に日仏景観会議伊勢を「伝統から未来」を主題に開催しました。

第1部伊勢会議では、「伝統と地域性」について、12月20日伊勢市観光文化会館でシンポジウムを開催。12月21日伊勢神宮の特別参拝・建築造営の山田工作所を見学しまし

Nous avons pu ouvrir le Colloque Franco-Japonais sur le Paysage à Ise, les 20 et 21 décembre 2009, suivi du Séminaire à Tokyo le 23 décembre avec 381 participants et remerciements aux patronages et aux membres du Comité d'Exécution.

La réussite en 2008 du Colloque Franco-Japonais sur le Paysage à Nikko-Tamozawa, pour le 50^{ème} anniversaire de Zen Nihon Kenchikushi Kai a fait les membres de l'Association souhaiter d'organiser le Colloque à Ise en vue de la reconstruction en 2013 du Temple d'Ise sur le thème de « Tradition et Futur ». Ce colloque est approuvé officiellement comme un cours de formation de Kenchikushi (CPD).

Et voici le programme de l'événement :

Colloque à Ise (le 20 décembre après-midi à Iseshi Kanko Bunnka Kaikan)

Allocutions :

SATO Tsutomu, président de Zen Nihon Kenchikushi Kai.

UDA Hideo, représentant de NPO Colloque Franco-Japonais sur le Paysage.

SUZUKI Kenichi, maire d'Ise.

た。

第2部東京会議では、「伝統とまちづくり」について、12月23日総合学術センターでシンポジウムを開催しました。

なお、今回の日仏景観会議伊勢が建築士会継続能力開発制度「CPD」に認定され、多くの参加者が活用されました。日仏景観会議伊勢の会議経過概要を報告します。

第1部伊勢会議「伝統と地域性」

2000年12月20日13時30分より伊勢市観光文化会館大会議室で第1部 伊勢の伝統と地域性についてシンポジウムを開催しました。

シンポジウムは柳生全日本建築士会副会長の司会で始まり、佐藤全日本建築士会会長・宇田NPO法人日仏景観会議代表・鈴木健一伊勢市長氏歓迎の挨拶を受けました。つづいて伊勢市役所都市整備部都市計画谷口課長および坂田主幹より「伊勢市の景観に関する取り組み」について報告を受けました。

基調報告に移りはじめに中村光彦神宮式年造営庁技術総監より「伊勢神宮について」基調報告を受けました。

休憩後（財）明治村館長 伊勢神宮第61回式年造替技監 飯田喜四郎名古屋大学名誉教授より「式年造替について」基調講演を受けました。

つづいてジャン・ロベール・ピット前パリ・ソルボンヌ大学総長より「地域の精神の価値」について伊勢におけるピット教授の講演を受け17時30分シンポジウムを終了しました。

宿泊場所の伊勢かぐらばりゾート千の杜に場所を移し、18時より（社）全日本建築士会伊橋副会長の司会でレセプションを開催。鈴木健一伊勢市長の挨拶では始まり、式年遷宮特別講演を中村光彦神宮式年造営庁技術総監より受けのち懇親会に入り交流を深めました。

12月21日宇治橋前に当日参加の愛知県支部会員含め集合、神宮司庁の担当官の案内で

Explication ; Politiques d'aménagement urbain de la Ville d'Ise :

TANIGUCHI Hisashi et SAKATANI Kazunori. section d'urbanism de la Ville d'Ise .

Rapport ; Temple d'Ise :

NAKAMURA Mitsuhiro,



伊勢市観光文化会館 Iseshi Kanko Bunnka Kaikan

Conférence: Reconstruction Périodique du Temple d'Ise:

IIDA Kishiro,

Conférence: L'esprit de lieu :

Jean-Robert PITTE.

Après le colloque, réception à Ise Kaguraba Sen-no-mori où les participants ont logé.

Visites (le 21 décembre)

la matinée : (en passant le pont Uji-bashi qui vient d'être reconstruit)

Prière shintoïste dans la première clôture de Naigu où les participants ont été permis d'entrer.

Appréciation de kagura (danse antique offerte à la divinité) .

midi : visites libres des quartiers Oharai-

11月3日式年遷宮にさきがけ架け替えられた宇治橋を渡り特別拝観、五十鈴川お手洗場を経て御正宮外玉垣内で御正殿を特別参拝し、神楽殿で御祈祷につづき典雅な舞（神楽・舞楽）を特別拝観し内宮参拝を終了しました。

まちづくりが行われたお祓い通り・おかげ横丁を自由見学後、第62回式年遷宮造替山田工作所に移動、所長の宇津野金彦技師の案内で式年造替の各作業場を見学、詳細説明を受け2時間に及ぶ山田工作場の見学を行い、伊勢会議を終了しました。

第2部東京会議「伝統とまちづくり」

12月23日（水）9時30分千代田区内の学術総合センター会議室で開催しました。

シンポジウムは、柳生全日本建築士会副会長の司会で始まり、佐藤全日本建築士会会長、宇田NPO法人日仏景観会議代表、鈴木健一伊勢市長より挨拶いただいた後、伊勢市役所都市整備部都市計画谷口課長・坂田主幹より「伊勢市全体のまちづくり」について報告を受けました。つづいて中村光彦神宮式年造営庁技術総監より20～21日の伊勢会議の経過と神宮式年造営についての報告を受けました。

つづいてジャン・ロベール・ピット前パリ・ソルボンヌ大学総長より「地域の精神の景観」について基調講演を受けました。

昼食休憩後早稲田大学教授中川武氏より「伊勢・空間の聖化」世界の聖地と伊勢の建築の意味について基調講演を受けました。

パネルディスカッション

パネラーは次のとおりです。
ジャン・ロベール・ピット氏
(Jean-Robert PITTE)

2003-2008年パリ・ソルボンヌ大学総長
現パリ・ソルボンヌ大学地理学教授。

飯田喜四郎氏（勸明治村館長、名古屋大学名誉教授。



参加者 participants

machi et Okage-yokocho.

après-midi: Visite d'étude de l'Atelier à Yamada pour gosengu.

Séminaire à Tokyo (le 23 décembre à Sogo Gakujutu Centre)

des allocutions à la conférence de Professeur PITTE même qu'à Ise

Conférence: Ise, sacralisation d'espace : NAKAGAWA Takeshi.

Discussion : les panélistes : Jean-Robert PITTE ;professeur et ex-président de l'Université Paris Sorbonne



パネリスト les panélistes

中川武氏 早稲田大学創造理工学部建築学科教授。

宇田英男氏 NPO 法人日仏景観会議代表。

中村光彦氏 (社)全日本建築士会専務理事・神宮式年造営庁技術総監。

中村光彦氏の進行で、伊勢の伝統とまちづくりをふまえ「伝統から地域のまちづくりの未来」についてパネルディスカッションに入り、「伝統から未来」に方向づけし終了しました。

18時から如水会館に場所を移して、レセプションを開催、全日本建築士会伊橋副会長の司会で進められ、参加者全員の自己紹介と日仏景観会議などの感想を語り合い、和やかなうちに交流を深め最後に全員で記念写真に納まり、3日間わたる日仏景観会議伊勢を終了しました。

*1 関係団体

主催 社団法人全日本建築士会 NPO 法人日仏景観会議

共催 伊勢市 財団法人日仏会館

後援 国土交通省 文化庁 フランス大使館 三重県 (社)日本建築学会 (社)日本建築家協会 (社)日本建築士連合会 (社)日本建築士事務所協会連合会 (社)建築業協会 (社)全国建設業協会 全国建設労働組合連合 PHP 研究所 (株)ファインコラボレート研究所 日刊建設工業新聞

*2 日仏景観会議 伊勢 実行委員会
委員長 柳生正雄（本部副会長）伊橋和男（本部副会長）中村光彦（本部専務理事）宇田英男（本部理事 NPO 法人日仏景観会議代表）石井隆（本部理事）田綿隆文（本部事務局）富田和男（本部事務局）

IIDA Kishiro :président de Meiji-mura, professeur d'honneur de l'Université de Nagoya

NAKAGAWA Takeshi :professeur de l'Université Waseda

UDA Hideo, représentant de NPO Colloque Franco-Japonais sur le Paysage.

NAKAMURA Mitsuhiko (modérateur) : président du Conseil technique pour gosengu. réception à JosuiKaikan

Organisateurs du Colloque :

ZenNihonKenchikushiKai et NPO Colloque Franco-Japonais sur le Paysage

Co-organisateurs :

Ville d'Ise et Maison Franco-Japonaise.

Patronages :

Misistère des TIT, Agence Nationale des Affaires culturelles. Ambassade de France, Préfecture de Mie et al.

Membres du Comité d'Exécution :

(ZenNihonKenchikushiKai)
YAGYU Masao, IHASHI Kazuo, NAKAMURA Mitsuhiko, ISHII Takashi, TAWATA Takabumi, TOMITA Kazuo, UDA Hideo.

伊勢神宮について

Temple d'Ise et sa reconstruction

神宮式年造営庁技術総監 中村 光彦

NAKAMURA Mitsuhiro, Chef du Conseil Technique pour Gosengu

日仏景観会議—伊勢—の開催にあたり、参加された方々の中には、伊勢神宮について極めて詳しい方もおられれば、余り詳しくない方等、様々な方々がおられるため、失礼かと思われるが、先ず、入口ともいえる極めて基本的な事項について述べることにしたい。

伊勢神宮とは一般的な呼び名であって、天照大御神を祭ってある内宮と豊受大御神を祭ってある外宮を中心とした社が全部で125あり、それぞれに神を祭った社の名称がある。

かつて日本に3年余り滞在したことがあるドイツの世界的建築家であるブルーノ・タウトは、様々な近代建築も建っている日本の中でも、特に価値の高いものとして「伊勢神宮」



内宮神域 plan de Naigu

Temple d'Ise et sa reconstruction

Ise se trouve cent kilomètres au sud de Nagoya. Cette ville est le haut lieu du culte shintoïste avec cent vingt-cinq temples au sommet desquels dominant Naigu (Temple Intérieur) et Gegu (Temple extérieur), respectivement dédié à Amaterasu et à Toyouke (Fig.1, Fig.2). Ces temples et leurs structures accessoires sont reconstruits tous les vingt ans (go-sengu). Ce système unique au monde qui sert à transmettre le style antique des bâtiments est nécessité par la pourriture des colonnes enfouies dans la terre, et il y a quelques autres temples au Japon qui pratiquent cette coutume.



Go-sengu

L'origine du Temple d'Ise n'a aucune preuve écrite. Mais d'après Kojiki (en japonais) et Nihonshoki (en chinois), chroniques rédigées début 8^{ème} siècle sur la base des mythes et des légendes oralement transmis pour affabuler la lignée unique de la famille impériale, le temple d'Amaterasu, la déesse ancestrale des empereurs, alors installé dans la cour impériale de Nara, ayant suscité de grands fléaux,



外宮神域 plan de Gegu

と「桂離宮」を挙げた。伊勢神宮には、日本の風土、伝統の原型を見ることができる。その特徴とは、材料や構造がそのまま活かされた最もシンプルで究極的な均衡の姿が見られ、まさに近代建築に通じるものがあると述べたタウトに限らず、価値の極めて高い建築として伊勢神宮を挙げる専門家は多い。それは、過去から現在、そして未来にも繋がる普遍的な価値を持つものといえる。また、自然と建物との関係でも、自然と建物との完全な調和が見られる点でも、地球環境時代の今日、大きな意味をもっている。

式年遷宮は690年、持統天皇の時代に始



内宮古殿池の真の御柱覆屋 cabane du pilier central

l'Empereur Sujin a expédié sa fille Yamato-hime, avec cinq généraux pour rechercher un nouveau endroit à transférer le temple. Le train de princesse arrive à Ise, après un grand détour errant et montant jusqu'au Lac Biwa. Et désormais tous les empereurs faisaient résider au nom d'Itsukino-miya une princesse au Temple d'Ise et en prenaient respectueusement le soin.

Avant que l'Impératrice Jito ait officiellement fixé en 690 la période de gosengu, les reconstructions du Temple avaient été sans doute pratiquées et le style du bâtiment avait déjà eu la valeur à conserver. Sinon, pourquoi la peine de reconstruire le bâtiment à courte vie, car la technique plus avancée de poser les colonnes sur les bases de pierre, donc mises à sec et durables sans pourriture, avait été importée du Continent au début du 7^{ème} siècle pour construire le grand temple bouddhiste comme Horyu-ji à Nara (le plus ancien patrimoine bois du monde) ? Piliers ou colonnes à bout enterré étaient aussi traditionnels et contemporains, et tous les bâtiments d'Etat dans les capitales plusieurs fois transférées jusqu'à l'Ere de Heian aussi que les habitations du peuple étaient ainsi construits. Par ailleurs, il est bien naturel que chaque génération construise de nouveau sa propre habitation, et au temps où la durée moyenne de vie des hommes était moins de cinquante ans, la vie de maison de vingt cinq ans suffisait. Cette vie est aussi celle de chaume. Nous avons souvenirs que, jusqu'aux années 1960 dans les campagnes du Japon, villageois refaisaient les chaumes par système d'entraide de « yui » à cette intervalle. Gosengu consomme beaucoup de bois hinoki qui, épuisé dans la forêt d'Ise vers 13^{ème} siècle, est amené de Kiso (Département de Nagano), ce qui devient de plus en plus difficile. Dans la planification pour les deux cent ans à venir de l'autarcie de hinoki, le vingt pourcent de bois du



内宮正殿の高欄の据玉 detail de Naigu

まったとされ、その理由には諸説あるが、第一の理由として言われているのは、神が住まれる建物が風雨に長年さらされて見苦しくなるのを防ぐため、20年ごとに建て替えるというものだ。

建物の掘立柱には基礎がなく、地中にそのまま入っているが、木材が痛まないのは20年程度が限度だったことによるのではないとも言われている。



自然の中に混然と一体化した社 Forêt autour de Naigu

prochain gosengu viendra de l'éclaircie de la forêt d'Ise.

Okage-mairi (visite de remerciement)

Le Temple d'Ise privilégié comme sanctuaire d'Etat allait décliner avec le pouvoir d'empereurs, après la montée de samurai de Kamakura Bakufu et pendant le Schisme impérial (1336-1392) gosengu était suspendu, A la fin du 16^{ème} siècle revenu de l'empereur a baissé au niveau de dernier échelon de seigneur féodal, dix mille koku (1.8 hectolitre de riz), que TOKUGAWA Ieyasu, nouveau chef d'Etat doublerait comme gratification. Alors Temple d'Ise était au bout de délabrement.

Mais, aux environs du 17^{ème} siècle, les efforts des sacerdoces du Temple d'Ise pour populariser le culte d'Ise commencent à fructifier dans un grand boom de la visite du Temple, de la nature aussi religieuse que touristique .

Durant l'Ere d'Edo jusqu'à Meiji, dix pourcent de la population du Japon s'est rendu tous les ans à Ise. Ce qui est surprenant.

La paix maintenue pendant deux cent soixante ans de l'Ere d'Edo par la fermeture du pays promulguée par Tokugawa bakufu a augmenté la productivité agricole, non sans quelques famines selon le temps et la région, les paysans, surtout dans l'ouest du pays, sont devenus relativement riches avec les produits commercables comme coton. Ils pouvaient s'offrir quelques fois dans la vie , par le système mutuel « kô » pour déposer de l'agent, le voyage à Ise, souvent en groupe dirigé par des guides touristique et religieux, en liaison avec les agents d'Ise. Quoiqu'à l'époque, le déplacement, surtout des paysans, à travers les péages des pays fût sévèrement contrôlé, les voyageurs illicites d'okage-mairi, en catimini ou sans consentement des employeurs, ne recevaient que réprimande. Tokugawa bakufu a bien aménagé les routes nationales, pourvues des villes étapes avec

いずれにしても内宮、外宮の正殿床下の中心に象徴的に残されている真の御柱からも柱の意味の重要性が理解される。そして、技術を世代から世代に伝承する目的もあるとされる。

他の有力な神社にも同様の制度があったが、今日まで完全な形で引き継がれているのは伊勢神宮だけになっている。

式年遷宮には我国の伝統・文化を継承するという意味、それらが現代や未来に生きるものとして連なるという意味がある。また、今日の環境問題に連なる視点からもとらえることができる。

式年遷宮では、大量のヒノキを使う。もともとは伊勢の宮域林から用材を切り出していたが、鎌倉時代に宮域林の原木が枯渇してしまい、木曽のヒノキが使われるようになった。しかし、そのままでは、木曽の木にも限度があるため、宮域林でヒノキを計画的に植林する200年計画が進められている。

今回の式年遷宮では、宮域林の間伐材が全体の木材の使用量の20%ほど初めて使われる。

伊勢は、歴史的にみて、神領として特別な扱いを受けてきた。このため、市民が昔からの伝統や習慣を守り伝えている。今日、伊勢市は、伊勢神宮の伝統である「生成り」をコンセプトにまちづくりを進めている。

生成りとは、ありのままを良しとすることで、日本の伝統文化・日本建築の本質にも通じる。これは興味深いまちづくりの考え方であり、伝統を未来へと活かしていく取り組みといえるのではないだろうか。

diverses sortes d'hébergement, tous les dix ou vingt kilomètres, en en comptant quarante le parcours par jour à pied. Aux années présumées de bons auspices, les routes bousculées de monde, de grandes cohortes des pèlerins à Ise ne cessaient pas de passer en dansant et criant frénétiquement

La ville d'Ise avec beaucoup d'auberges et de magasins ; du quartier Kawasaki-cho où arrivaient les voyageurs à pied ou par bateau, jusqu'à l'actuelle enceinte de Naigu . Désormais, le Temple et la ville d'Ise vivent sur le tourisme, et même aujourd'hui, ils accueillent annuellement plus de cinq million de visiteurs.

De la Restauration de Meiji et à nos jours

L'empereur Meiji enfin élevé à vrai chef d'Etat voulait moderniser le Japon, et en même temps purifier le shintoïsme comme la base de nationalisme. Il ordonne de supprimer le syncrétisme shinto-bouddhisme au mépris du dernier et hiérarchiser les temples shintoïstes sous le sommet du Temple d'Ise. Dont un résultat, curetage de l'enceinte de Naigu des auberges qui profanaient aux yeux de l'Empereur sa divine ancêtre. Shingi-cho (bureau pour les temples shintoïstes) était un important organe d'Etat, qui, devenu une personne civile Jinja-cho après la Guerre, organise quatre-vingt mille temples et sert à collecter la moitié de contribution nécessaire pour gosengu (soit 500 milliard de yen).

Avant la Guerre, la haute appréciation du Temple d'Ise par un architecte allemand Bruno Taut, de point de vue de l'architecture moderne de l'époque a fait retrouver aux Japonais la valeur mondiale de cette architecture.

Aujourd'hui divers travaux en vue de la consécration en 2013 des nouveaux bâtiments des temples d'Ise sont effectués avec les cérémonies afférentes.

伊勢市の景観に関する取組み

Politiques paysagères de la Ville d'Ise

伊勢市長 鈴木健一

都市計画課長 谷口 尚

主 導 坂谷和則

SUZUKI Kenichi, maire d'Ise

TANIGUCHI Hisashi, chef de la Section d'Urbanisme

SAKATANI Kazunori, la Section d'Urbanisme

伊勢市の景観やまちづくりに関する取組についてご紹介させて頂く。

伊勢神宮は正式には「神宮」といい、紀元前4年に鎮座された内宮、紀元478年に鎮座された外宮をご正宮として、別宮、摂社、末社、所管社とあわせて125社から成り立っている。特に内宮前には宇治のまち、外宮前には山田のまちが発展してきた(図1)。

平成25年には第62回の御遷宮が予定されている。また、平成17年、18年にはお木曳行事が行われた。お木曳行事は、旧神領の市民が2ヶ月間にわたり御用材を両宮に曳き入れる盛大な行事であり、全国からの「一日神領民」も多数参加して頂き、期間中、伊勢のまちは勇壮な掛け声と木遣音頭(きやりおんど)で包まれた(図2)。

伊勢のまちづくりは、20年に一度行われる式年遷宮とともにつくられてきたといっても過言ではない。外宮と内宮をつなぐ御幸道路をはじめ、鉄道、博覧会、国道23号などが、遷宮に合わせて整備されている。前回、平成5年の第61回御遷宮では、近畿自動車道の開通、神宮美術館会館、祝祭博の開催などがあった。また、おはらい町のまちづくりとお



La Ville de YAMADA (ancien nom de la ville d'Ise) s'est formé autour de cent vingt-cinq temples shintoïstes dont les principaux sont Naigu et Gegu (Fig.1).

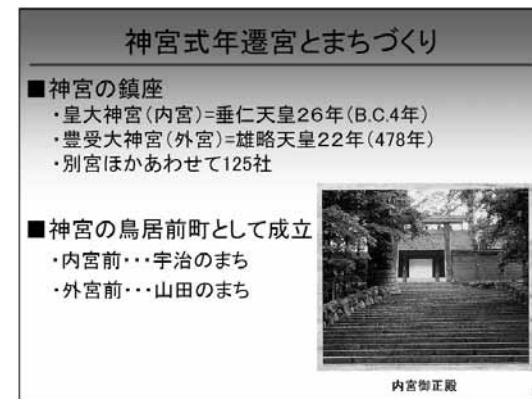


図1 (Fig.1) 神宮式年遷宮とまちづくり

Avant le 62^{ème} gosengu, les fêtes de traîner-les-bois en 2007 et 2008, mobilisaient pendant deux mois beaucoup d'habitants. Gosengu est toujours une importante occasion pour l'aménagement urbain, comme route vers Naigu, RN23, chemins de fer et les expositions, et lors de dernier gosengu, l'Autoroute Kinki, Oharai-machi et Okage-yokocho ont été aménagés(Fig.2, Fig.3).

Avant la Guerre, très audacieux plan de « Ville



図2 (Fig.2) 神宮と式年遷宮

かげ横丁も平成5年(前回)の御遷宮を目指して取り組んできたものである(図3)。

伊勢市では、このように神宮の遷宮をきっかけとして、まちづくりや都市整備が進められてきたが、戦前には、神宮のあるまちとして、「神都計画」という、都市マスタープランのようなまちの方向性を示す計画が作られた歴史がある(図4)。

次に、図5は、昭和11年頃から17年頃にかけて作られた、幻の神都計画と呼ばれている「大神都特別聖地計画」である。道路や鉄道といった交通施設、博物館などの文化施設などの整備が盛り込まれた、総合的な都市計画案であった。しかし、この計画は戦争による財源不足によって、一部実現されただけにとどまったが、この計画にあるように、近代国家の象徴にふさわしい威厳を保つことを目的に、「風致地区」、「美観地区」、「高度地区」といった、伊勢市の特徴的な地域地区が決定されている(図5)。

次に、図6は、昭和11年に当初決定した「風致地区」を示し、第4種風致地区で現在も約3,000ヘクタールというかなり広い範囲を指定し、都市の風致を維持することを目的として、建物の最高高さや壁面後退、緑地率や植栽率を一定程度確保するよう制限を設けている(図6)。

次に、昭和14年に当初決定した美観地区は、建物の制限の内容を定める建築条例が未

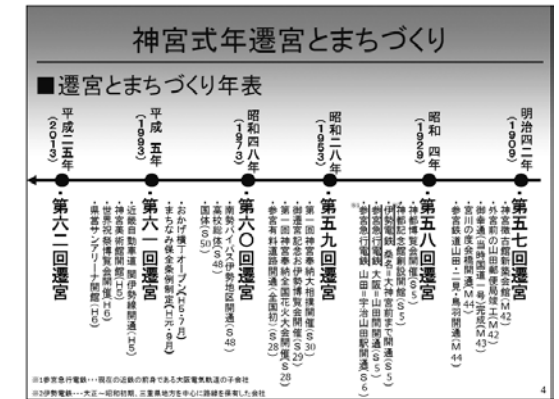


図3 (Fig.3) 遷宮とまちづくり年表

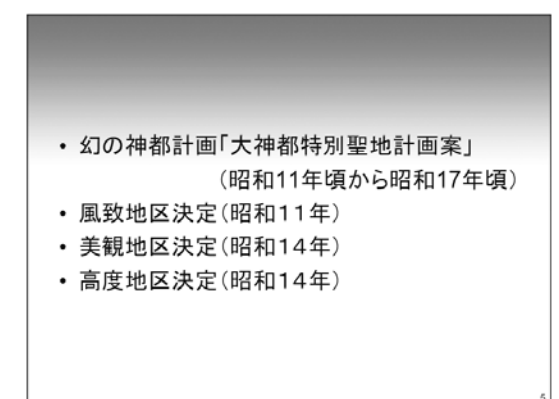


図4 (Fig.4) 幻の神都計画



図5 (Fig.5) 大神都聖地計画

Sainte » est fini sans résultat (Fig.4, Fig.5), qui a cependant donné naissance à l'idée de zones paysagères ; fuuchi-chiku (bon paysage. Fig.6), bikan-chiku (beau paysage, Fig.7) et kodo-chiku (hauteur limitée. Fig.8).



図 6 (Fig.6) 風致地区

制定であったため、景観法の制定に伴い廃止したが、指定されていた地域は、外宮、内宮をつなぐ道や宮川から伊勢市駅の範囲の鉄道沿線を中心に指定しており、外宮、内宮にいたるアクセスルートの景観整備を目指したものであった (図 7)。

明治 34 年に定められた屋舎制限令をもとに昭和 14 年に当初決定した「高度地区」は、神宮の威厳保持のために決定されたもので、外宮前、内宮前において建築物の高さの最高限度を 20m、10m としている。ここまでが、伊勢市の概要とこれまでの景観についての取組みである (図 8)。

平成 16 年に景観法が公布され、全国的に景観に対する取組が行われてきており、本市においても、これまでの取組を踏まえて、伊勢市景観計画を策定し、10 月 1 日から運用開始した。景観計画においては、神宮の建物が白木の良さを生かした建物であることから、「生成り」、つまり、素材そのものの良さを生かすことをテーマとしている。市全域で一定規模以上のものの届出を義務付けるほか、これまで自主条例で取り組んできた地区については、重点地区を指定。また、美観地区の考え方を継承し、外宮、内宮、二見浦といった観光交流拠点へのアクセスルートの景観形成を図るため、沿道景観形成地区を指定している (図 9)。

内宮おはらい町地区については、これまで



図 7 (Fig.7) 美観地区

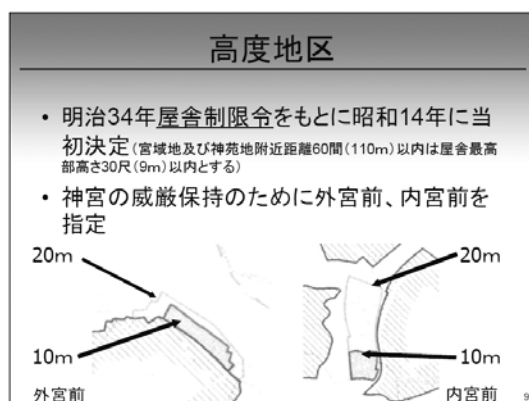


図 8 (Fig.8) 高度地区

Surtout kodo-chiku de 1935 a limité la hauteur des bâtiments à 20mètres devant Gegu et à 10 mètres devant Naigu. Après la Loi du Paysage de 2004, la ville d'Ise a institué le plan du paysage, dont l'esprit de base est « kinari » (naturel sublimé) pour employer les matériaux naturels. Et les quartiers riverains des routes d'accès aux patrimoines comme Gegu, Naigu et Futamiga-ura sont traités comme bikan-chiku. Oharai-machi, aménagé par l'initiative des habitants est désormais classé comme zone du paysage (Fig.9, Fig.10). Comme on dit « dix ans pour Keikan, cent ans pour Fukei et mille ans pour Fudo *note, il faut beaucoup de temps pour la formation



おはらい町 Oharai-machi

も自主条例で取り組んできた地域であるが、さらに、都市計画の地域地区として景観地区を指定するとともに、景観地区からの景観を保全するため、建築物の高さの最高限度を 10m とするよう高度地区を変更し、更に、積極的に景観形成を図っていく (図 10)。

最後に、「景観 10 年、風景 100 年、風土 1000 年」といわれるように、風景や風土が形づくられるには大変長い年月がかかるが、失われるのは一瞬である。美しい景観を形作っていくためには、そこに住む一人ひとりが、先人が培ってきた美しい風景を大切に守り、つくり、育てる意識を持つことが重要である。次世代に美しい景観を引き継いでいくために、景観づくりについて、たくさんの方々に意識をもってもらうことが大切と考える。本日がそのような機会になれば幸いである。



おかげ横町 Okage-yokochou

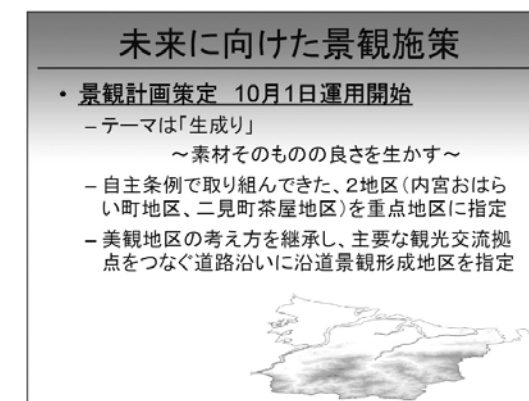


図 9 (Fig.9) 未来に向けた景観施策



図 10 (Fig.10) 未来に向けた景観施策

paysagère, mais qui peut être perdue instantanément. Donc la conscience des habitants transmise par génération est indispensable.

*note :paysage a plusieurs mots japonais, composés de deux lettres chinoises ;kei-kan, ombre et vue, s'emploie pour réglementation, Fu-kei, vent et ombre, Fu-do, vent et terre.

式年造替について

Reconstruction périodique du Temple d'Ise

(財)明治村館長 名古屋大学名誉教授 飯田 喜四郎

IIDA Kishirou, président de Meiji-mura

(講演の後にスライドの説明が行われたが、ここでは、講演の骨子と一部のスライドを記す。)

まず、宮内庁、名大教授、その中での伊勢神宮式年遷宮での業務などについて、自分の経歴を紹介された。付言すれば、飯田先生はフランスの記念建造物保全専門家としての国家資格を Ecole de Chaillot で取得され、名



(Ici, un résumé de la conférence, avec un choix des diapositives présentées au Colloque)

Le Professeur IIDA a d'abord présenté sa carrière professionnelle; l'Agence Nationale des Affaires Impériales et professorat à l'Université de Nagoya pendant lequel il a travaillé comme conseiller technique pour la reconstruction du Temple d'Ise (gosengu). D'ailleurs, il est diplômé à l'Ecole de Chaillot et traducteur du livre " Bâtisseurs



内宮の敷地の俯瞰（前回の遷宮時のもの）：左の敷地には古い建物があり、右の敷地には建設中の建物が見える。次回の遷宮ではこの関係は逆になる。

vue d'oiseaux des terrains de Naigu (Temple Intérieur) lors de précédant gosengu (1994) : à gauche les anciens bâtimets et à droite bâtiments sous construction. La relation des terrains est renversée au prochain gosengu.



造営中の内宮本殿（現在の本殿）
Bâtiment principal de Naigu sous construction (actuel bâtiment)

著「カテドラルを建てた人々」の訳者である。

式年遷宮は690年持統天皇による制定後続いており、伊勢の内外宮他125の神社や構造物を20年ごとに建替える。

des cathédrales" de Jean GIMPEL.

La coutume de gosengu a été instituée en 690 par l'Impératrice Jito, et les bâtiments des 125 temples à Ise aussi que d'autres structures sont reconstruits tous les vingt ans.

木材の腐蝕について

最初に、造替の本题である木材の腐蝕の問題に入る。伊勢神宮の建物は根元を地中に埋めた掘立柱を使っているので木材の土中部分は腐蝕する。前回の遷宮の前、神宮内の付属建物の底が落ち、また外宮の西の宝殿が上部で十センチほど傾いた。どちらも柱の土中部分が腐ったためであった。前例を調べた所、平安中期（1039年）に社殿が倒壊している。これは「世にも稀なること」とされ、柱の腐敗についての調査の前例は、明治以後も昭和までない。昭和28年角南博士が柱の腐敗に対処するため、柱の土中部分を銅板で巻いたが、同時に埋め戻し土に苦塩を混入したため、銅板そのものが腐蝕した。苦塩の使用は平成6年（1994）年に廃止された。前回の遷宮時の調査では内外宮の200本の柱の半数は土中部分が完全に腐蝕していた。

Pourriture des colonnes

La première raison qui nécessite la reconstruction de gosengu est la pourriture des bouts enterrés des colonnes des bâtiments. Avant le précédent gosengu un



土中部分が腐蝕した柱（検査写真）
photo de la vérification de la pourriture des colonnes



傷んだ茅葺き屋根 chaume détérioré

茅葺きの寿命について

宮川上流の茅場から集められる長さ2メートルの良質な茅で葺かれた神宮建物の屋根は数年で表面が腐り、特に北面はひどく下地の竹が見えるまでになる。これは民家の茅葺きより短寿命である。民家では囲炉裏の煙で茅が燻られ、また下面が解放されて通気がよい。神宮では下に厚さ5センチの板が貼られ、伊東忠太時代からその上に更に銅板を貼るよう



宇治橋左岸鳥居 reconstruction du torii d'avant le pont Ujibashi

auvent d'un bâtiment du Temple est tombé et le Trésor d'ouest du Temple Geku (Temple Extérieur) s'est inclinée de dix centimètres. La cause de ces deux accidents était la pourriture des colonnes. Historiquement le bâtiment de Naigu s'est renversé en 1038 et, ceci, considéré comme un événement exceptionnel, la vérification de la pourriture des colonnes n'a jamais été entreprise même après Meiji.

En 1958 Docteur Sunami a protégé la partie sous terre des colonnes avec tôle de cuivre, mais en même temps il a mélangé la sarine de magnésium dans la terre de remblai qui avait fâcheux effet de corroder le cuivre. Cette dernière pratique a été interdite en 1994. La vérification effectuée lors de précédent gosengu a avéré que la moitié des deux cent colonnes de Naigu et de Geku a été complètement pourrie.

Pourriture du chaume

Les bâtiments de Temple d'Ise sont couverts de roseaux de bonne qualité (deux mètre de long) qui sont cueillis à la prairie en amont de la Riv.Miyagawa.

Mais cette toiture se détériore plus vite que les chaumes ordinaires: la surface se ternit en quelques ans, et la face orientée au nord est plus vite à se pourrir jusqu'à l'exposition finale des lattes de bambou.

Dans la maison de campagne les roseaux sont fumés par la fumée du foyer et bien ventilés, tandis qu'à Ise roseaux sont mis sur la planche de bois d'épaisseur de cinq centimètre, sur laquelle professeur ITO Chuta a ajouté tôle de cuivre. Plusieurs moyens ont été essayés sans résultat pour améliorer la vie des roseaux, et au prochain gosengu les roseaux seront fumés par les feuilles de pin.

变成了。茅に銅線を混ぜるなどの対策は効果がないので、今回の遷宮では松葉で燻した茅が使われるであろう。

金物について

神宮の建物には浮彫りのある金銅の金物が使われている。戦国時代を通じて式年遷宮の慣例は疎かにされ、神宮は放置され荒れていたが、桃山時代の再興以後、金物は当時の様式で江戸様になり、数も増えた。角南博士は京都の金物納入者の記録を調べ、平安朝時代の数にまで減らしたが、デザインを復古するに至らなかった。今回の遷宮でこの点は期待できる。

式年遷宮を二十年とした理由

- 平均寿命が短かった時代に世代間で儀式を確実に伝承出来る長さ
- 天皇一代一回とする説
- 古代、造替の財源であった干飯の貯蔵期限など、幾つかの説があるが、掘立柱の寿命によるという理由は強い。出雲大社（鎌倉時代まで棟高が48メートルあった）が紀元1000年から1200年までの二百年間に7回倒壊したと伝えられているが、ここで再建に5～6年は必要と考え、平均寿命は25年になる。

Quincailleries

On emploie quelques pièces de cuivre doré à relief pour décorer et protéger certaines parties des temples d'Ise. Pendant l'époque des royaumes combattants (fin 15^{ème} à début 16^{ème} siècle) la coutume de gosengu négligée, les temples étaient presque abandonnés et vetustes, et après la restitution de l'ère de Momoyama (fin 16^{ème} siècle), le nombre des quincailleries à style de l'époque a augmenté. Docteur Sunami suivant le résultat de fouille des archives des fournisseurs à Kyoto a diminué le nombres de pièces au niveau de l'ère de Heian, sans toutefois arriver à trouver le style originel. Ce dernier verra le jour au prochain gosengu.

Pourquoi tous les vingt ans?

Quelques raisons sont proposées:

- temps nécessaire pour transmettre la coutume à la prochaine génération, au temps où la vie moyenne était plus courte.
- une fois de gosengu par règne d'un empereur.
- limite de conservation de hoshi-i (riz cuit et séché) qui était originellement les fonds de gosengu.

Mais la plus forte raison serait la vie de colonnes à bout enterré. D'ailleurs, Temple d'Izumo (Département de Simane, dont la hauteur du faite était 48 mètres avant 1200AD.) s'est renversé sept fois entre 1000 et 1200AD. Supposant 5~6 ans nécessaires pour la reconstruction, la vie moyenne de ce temple devient 25 ans.

日仏景観会議・伊勢におけるピット教授の講演 Conférence par Monsieur le Professeur J-R PITTE

地域の精神の価値

L'esprit de lieu

2009 年 12 月 20 日 16:00 ～伊勢市観光文化会館
le 20 décembre 2009, à IseKankoBunkaKaikan

お招き頂き有り難うございます。伊勢は日本人にも、また日本を訪れる外国人にも素晴らしい場所です。

地球の両端の日本とフランスの明治開国以後の共通の歴史で、フランスの建築家や景観専門家は特に二十世紀の日本から多くを学び、また多くの分野の交流が今後も更に豊かになって行くでしょう。数ヶ月前、宇田さんから伊勢の御遷宮に関する会議のため、ここに来るご依頼がありました。御遷宮は良く知りませんが、私は伊勢には何度か来ております。



二見が浦 Futamiga-ura

二見が浦

この景色は、私が子供時代から夢見て来たもので、世界の聖所の本の写真の中でこの写真に最も魅惑されたのです。当時、私は30年後、日本を度々訪れるようになり、この景色の意味を考えると知らなかったのです。

今も、この景色を十分理解したとは思いませんが、それは困ったことではない。何故なら日本では、あまり言葉で理学的説明をせず、

Merci beaucoup, cette invitation à Ise. C'est l'endroit qui est absolument merveilleux pour les Japonais, mais aussi pour tous les étrangers qui visitent le Japon.

La France et le Japon sur les deux extrémités de la Terre. Notre histoire commune depuis l'ouverture à l'époque de Meiji montre que, dans beaucoup de domaines, échanges d'idées se continuent et vont s'enrichir encore mieux.

Il y a quelques mois, M Uda m'a demandé de venir ici à Ise pour ce colloque sur la reconstruction du Temple. Je ne la connais pas bien quoique j'y suis venu quelques fois

Futamiga-ura

Je rêvais depuis mon enfance ce paysage tout près d'Ise, car dans un livre sur tous les lieux sacrés du monde, cette photo me fascinait le plus. Alors, je ne savais pas que trente ans plus tard je viendrais au Japon et essaierais de comprendre ce paysage. Je n'ai pas encore bien compris ce paysage, mais ce n'est pas grave. Parce qu'au Japon, il ne faut pas trop chercher à mettre des mots ou des explications rationnelles, surtout sur ce qui est plus important dans la culture japonaise; c'est formidable !

Au contraire, dans la culture occidentale, trop influencée par philosophie grecque, par judaïsme, par christianisme, on met le mot dans des dieux, mais au Japon on les laisse

文化で重要なことほど、言葉を持たない。それは素晴らしいことです。ギリシャ哲学、ユダヤ教、キリスト教の影響の強い西欧文化では、神々を言葉に置換えますが、日本では曖昧にしておくのです。それは新幹線や超高層や電子機器を発明し、理性的、論理的、技術的なこの国に来たフランス人にとって、驚きで、非常にエキゾチックに感じます。

宇田さんが場所の精神の話をするよう言われました。その正確な意味を見つけるのはフランス人に難しいが、私は地理学者で、空間や国土や場所に興味を持っています。2千年前、ローマ人はゲニウス・ロキと言う言葉で、場所の精を表し、どの場所にも神々が居り、場所を性格付け、守ると信じていました。

日本にもあらゆる所に神道の神々が、何千、何百といえます。このマイクにも神が宿ると考えるアニミズムです。一般を越えた精神を持つ人間国宝を考えたのも皆様です。私は良い意味でのグローバリゼーションを利用する上で、場所の精神が役立つと思います。

グローバリゼーションはインターネットなどの技術で世界を均一化すると恐れられています。景観、建築、装飾などが均一化し、この会場も、世界どこにでもある内部デザインで、皆様は私と同じ西洋の服装です。ハンバーガーやコカコーラなど均一の食べ物。いつかは世界に悪い英語、ベーシックイングリッシュしかなくなる恐れがあります。社会風習も男女や、若し子供が居るとして、親子関係も均一化され、我々はあまり独自でないアングロサクソンの考え、ポリティカル・コレクトネスの脅威を感じます。

従って、地球の物的、知的、道徳的、文化的な均一化に対抗するための一つの方法は、場所の精神を再発見することです。場所の精神を見出すことで我々の精神の独自性が場所と一体になるからです。そして、場所の多様性、文化の多様性は、互いに異なる点で人類の豊かさです。我々は互いに知り合い、交流

flous dans le nuage. C'est une grande surprise pour un Français qui se promène dans un pays qui est tellement rationnel, logique et technicien, qui a inventé shinkansen, gratte-ciels, procédés électroniques. Voilà, vous êtes vraiment exotique pour un Français.

M.Uda m'a demandé de parler de l'esprit de lieu. Ce qui est une question pour Français assez difficile de trouver le sens précis. Moi, comme géographe, je suis beaucoup intéressé à l'espace, au territoire et aux lieux.

Je me suis rappelé qu'en fait les Romains avaient il y a deux mille ans l'expression « genius loci » qui veut dire génies des lieux, et croyaient que chaque lieu a la divinité qui le caractérise et qui le protège.

Et vous avez la divinité shintoïste, milliers des milliers de dieux partout, même ce micro a divinité, c'est la culture animiste. C'est vous qui avez inventé les trésors nationaux vivants qui ont de l'esprit au dessus du normal. Je trouve très intéressant l'esprit de lieu pour profiter la mondialisation dans le meilleur sens possible.

On a très peur de la mondialisation, qui s'accélère par technologie comme internet à uniformiser la Planète. Et le paysage, l'architecture et décoration. Ici, dans cette salle, à part votre présence, c'est la même salle de décor universel et mondialisé. Vous êtes tous habillés à l'occidentale comme moi. Et la nourriture mondialisée comme hamburger et coca-cola. On a peur qu'un jour on n'ait qu'une seule langue dans le monde, basic English, mauvais anglais. Mêmes habitudes sociales entre hommes et femmes, entre parents et enfants, si toutefois il y a des enfants. Nous sommes menacés de Polytical Correctness, idée anglo-saxonne

することを学びます。若し我々が皆同じなら、交流は必要なく、退屈になり、それは人類の死に至るでしょう。

ここに、日本とフランスの例を取り上げ、表面的方法ですが、建築家や整備担当者など皆様の間での議論に役立てたいと思います。ところで、場所の精神を養うに関し、皆様日本人の考えと私個人フランス人の考えは異なります。一億三千万人の日本人が環境と一体になり、その部分として、全ての場所を喚起する力を極端な点まで養って来ました。昨夜、私は地下道で、この景色と共に裸の男女が描かれた江戸末の版画を見ました。貝や魚を獲るためでなく、この岩を崇め祈るために裸になり、彼らは風景と一体になっていました。



清水寺にて à Kiyomizu-dera

これは、西欧観光客の多い京都清水寺のおみくじの集まりです。巡礼や観光客はおみくじを買い、読んで、この木にくくります。これは意外ものですが、私はこれはこの場所、神道と仏教の名所であり、日本人が特に中学高校時代など人生の重要な時期に、一生に何回か来る、この清水寺と一体になるための、知的というより感情的な手段だと思っています。清水寺や修学院など、京都は美と聖の景観の場であると共に、コンクリート建物の現代都市です。自然と人間と伝統と現代性がマヨネーズのように完全に混ざっています。

pas très originale.

Donc, pour lutter contre cette uniformisation à la fois matérielle, intellectuelle, morale et culturelle de la Planète, un des moyens, c'est de faire ressortir l'esprit de lieu, car, si nous faisons ressortir l'esprit de lieu, c'est notre originalité d'esprit que nous faisons corps avec les lieux. Et la diversité de lieux, la diversité de culture est la richesse de l'humanité, que nous sommes différents d'un à l'autre. Nous apprendrons bien à se connaître et à échanger. Si nous sommes tous pareils, il n'y a pas besoin d'échanger, on s'ennuie. C'est la mort de l'humanité.

J'ai choisi quelques exemples, à la fois japonais et français. C'est une approche superficielle pour vous aider à réfléchir entre vous, architectes et aménageurs. Alors cultiver l'esprit de lieu ; votre conception propre d'un Japonais et la conception personnelle d'un Français sont un peu différentes. 130 million des Japonais font corps avec l'environnement, en en faisant partie, cultivent à un point extraordinaire la puissance de l'évocation de tous les lieux. Hier soir j'ai vu dans le passage souterrain une estampe japonaise de la fin de l'époque d'Edo de ce paysage où les hommes et les femmes sont tous nus, pas pour ramasser les coquillages ou poissons mais pour admirer et prier ces rochers. Ils faisaient partie intégrale du paysage.

Ceux-ci, c'est ensemble des ex-voto à Kiyomizu-dera de Kyoto, qui attire beaucoup de touristes occidentaux. Les pèlerins et touristes japonais d'acheter ces papiers magiques, puis les lire, puis les lier sur un petit morceau de bois. C'est très étonnant, mais je sais, c'est un moyen, pas très intellectuel, mais plutôt sentimental,



哲学の道で petites divinités de rue

おそらく皆様方は哲学の道でこの小さな神様の集まりの写真を撮ろうと思わないでしょう。しかしフランス人には、自動車の入った家の現代性の前に小さな神様が見えるのが不思議です。それで写真を撮って、考えた。何故だろう？お神酒や、賽銭や、餅が備えられて。それは、環境と一体になり、場所を我がものとする方法です。これは近所の住民の神社です。ローマ人が家に神を祀って保護を祈り、安心したのと同じです。ある日、誰かが勝手にこの何平方メートルかの場所をなくしてしまったら、住民は非常に不幸になり、引っ越してしまうに違いありません。これが、この小さな街を、日本全体と同様、魔法に掛けているのです。

スコットランドの北に、非常に寒く、嵐ばかりで、食べるものがないサント・キルダと言う小さな島があり、1880年まで漁民が住んでいました。人類学者が調べた所、この島では、場所、石、鳥、花など全てものに魔法が掛かっており、住民は千年来のケルトの古い信仰を守って来ました。そこに、新教徒の宣教師が来て、彼らを厳格な新教に改修させると、住民はすぐ島を離れました。魔法に掛けられることで彼らは厳しい島の条件に耐えられたのです。

結局、日本がこれと同じです。地震、津波、台風、地滑り、それに至る所高い山。土地を耕すのは厳しいが、そこに、一億三千万人が

pour se réconcilier avec l'endroit, Kiyomizu-dera, un haut lieu à la fois shintoïste et bouddhiste, où chaque japonais vient quelques fois dans sa vie, pour faire corps avec ce lieu ;

tous les jeunes lycéens et collégiens, moment fort de la vie japonaise. Kiyomizu-dera est un peu comme d'autres endroits de Kyoto comme Shugakuin-rikyu, où à la fois une grande beauté et paysage sacré, et en même temps la ville moderne avec tours de béton. Et la nature, les hommes, la tradition et la modernité sont complètement mélangés comme dans une mayonnaise.

Et peut-être que vous Japonais, quand vous passez sur ce chemin de Philosophie devant ce petit ensemble de divinités, vous ne prenez pas photographie. Mais pour un Français, c'est extraordinaire de voir des petites divinités devant la maison avec la voiture dans la modernité. On a envie de prendre photo, et après, je réfléchis, pourquoi ça ? Avec sake, pièces de monnaie et de mochi.

C'est le moyen de faire le corps avec l'environnement et de vous approprier le lieu.

Pour les habitants du quartier, c'est leur jinja. C'est comme les Romains avaient leur divinité dans leur maisons pour les protéger, pour sentir chez eux. Si un jour quelqu'un supprime volontairement cette petite espace de quelques mètres carrés, je suis certain que les habitants du quartier seront très malheureux et se mettront à déménager. C'est ce qui fait ce quartier, comme tout le Japon, l'espace enchantée.

Il y a une île au nord d'Ecosse, très froide,



petite chapelle de rue

平方キロメートル当り千人で詰まっている。何故か？日本は魔法に掛かった大きな神社だからです。この写真は街の小さな神社です。



皇居 Palais Impérial à Tokyo

ここで伊勢の説明は不要です。しかし、伊勢はそれ無しでは日本が存在しない最高の神社です。それ無しでは日本が存在しない第二の神社は東京の皇居です。天皇の話も、議論も、説明もしないが、それでも天皇は存在する。従って天皇制に賛成も反対もない。それ

avec beaucoup de tempêtes, rien à manger, qui s'appelle Sainte Kilda. Les pêcheurs vivaient dans cette île jusqu'à 1880. Et un anthropologue a étudié et trouvé que pour les habitants tous étaient magiques et enchantés, lieux, pierres, oiseaux, fleurs qui s'y trouvaient. En fait ils ont gardé la vieille religion celtique depuis mille ans. Il leur arrivait un missionnaire protestant qui a décidé de les convertir au protestantisme très stricte. Les habitants devenus chrétiens ont quitté l'île très rapidement, parce que l'île est devenu invivable pour eux. Cet enchantement leur avait permis de supporter les conditions très dures de l'île.

Et au fond, le Japon est ça. Vous avez tremblement de terre, tsunami, typhon, glissement de terrain, hautes montagnes partout. C'est difficile de cultiver la terre et pourtant vous vivez 130 millions serrés mille habitants par kilomètre carré. Pourquoi? Parce que votre Japon est enchanté, votre Japon est grand jinja. Et voici, c'est un petit jinja de quartier.

Ce n'est pas besoin d'insister sur Ise. Mais Ise c'est le jinja par excellence sans lequel Japon n'existe pas. Et le deuxième jinja sans lequel Japon n'existe pas, c'est palais impériale de Tokyo. On ne parle pas d'empereur, on ne discute pas, on ne l'explique pas, mais il existe. Donc on n'a besoin d'être ni pour ni contre le système impérial.

C'est idée occidentale. Les Anglais par exemple sont pour la reine ou contre la reine, républicain.

Au Japon la question ne se pose pas. L'empereur est là, on ne parle pas, on ne touche pas ; ça suffit, la constitution le dit

は西欧的思考で、例えば英国では女王賛成も反対の共和主義者も居る。日本では問題にもならない。天皇は居り、それを話さず、触れない。それで十分。憲法で決まっているから。マッカーサーが、日本の心情とアメリカの心情を和解させる、日本の象徴の天皇の考えを見つけたのです。

実際、東京の町を考えると、交通渋滞、騒音、コンクリートだらけの中に 1300 万人が詰まる、世界で信じられない首都ながら、みんなは我慢して住んでいます。私自身、東京に着くと幸福になり、気が安らぐのです。それは、通常の都市論や地理学理論では理解出来ない都市です。学生に講義する時、東京は大きな台風で、その真中に不動不在の黒点があり、そこで何が起きているか分からないと言います。この 30 ヘクタールの皇居は神秘です。そのために東京は機能し、日本は機能する。これらの全てのために、日本は象徴性を持ち、魔法に掛けられて、それで、どの場所も、どの地域も名所になり、愛される所になる。



東京の明治神宮も同じです。私は何時も一、二日そこへ行きます。それはうるさい動乱と狂気の信じられない都市の真中の美と静寂の特別の場所です。代々木公園と合わせたこの 30 ヘクタールに、季節は流れ、木の葉の色

très bien. Mac Arthur a trouvé cette idée pour réconcilier la mentalité japonaise et la mentalité américaine, que l'empereur est le symbole du Japon.

En faite, si l'on compare la ville de Tokyo qui est quand même un métropole incroyable du monde, avec trente millions habitants entassés avec l'embouteillage, les bruits et béton partout, et tout le monde supporte bien d'habiter à Tokyo. Même moi, quand j'arrive à Tokyo, je suis heureux, je suis chez moi. Alors, c'est une ville incompréhensible normalement par logique urbanistique et géologique. Quand je fais cours aux étudiants, je dit que Tokyo est un grand typhon et au milieu du typhon il y a un noir qui ne bouge pas, qui n'existe pas, et on ne sait pas ce qui s'y passe. C'est mystère, ces trente hectares de palais impérial. C'est pour ça, Tokyo fonctionne et le Japon fonctionne. C'est que pour les toutes choses, vous avez une symbolique, un enchantement, qui fait que n'importe quel lieu, n'importe quel territoire devient un haut lieu et un territoire aimé.

C'est pareil que je crois à Tokyo, Meiji-jingu. J'y vais toujours au cour d'un jour ou deux, parce que c'est un endroit extraordinaire de calme, beauté et silence au milieu de cette ville incroyable qui est tellement bruyante, agitée et folle, et ici sur trente hectares avec parc de Yoyogi, c'est juste le cour de saisons, changement de couleur des feuilles, d'iris qui fleurit dans le petit lac. C'est un endroit extrêmement formidable qui n'a pas son équivalent dans d'autres métropoles du monde. Bois de Boulogne à Paris, Hyde-park à Londres, Central-park à NewYork, tous ces parcs

が変わり、小さな湖にアヤメが咲きます。世界の首都には同じものがありません。パリのブローニュの森、ロンドンのハイドパーク、ニューヨークのセントラルパーク。みな明治神宮と同じ大きさですが、道路、高速道路、地下鉄が通り、人が一杯で、静寂と瞑想の場所ではありません。明治神宮、皇居、伊勢神宮はボードレールの詩を思わせます。「そは、秩序と美、豊穡、静寂、至福」



小堀遠州の庭 jardin de Kobori-Enshu

名古屋の近くの小堀遠州の庭は、人工と自然の結合を遥かに越えた考えを示します。これは景観を取込む借景の優れた例で、皆様の自然に対する態度、謙譲を示します。日本の景観は下から上を見ます。反対に西欧の景観は上から下を見る。聖書の考えに基づく西欧人は自然は自分達に役立つためにあると考えます。そのため彼らは山に登り上から眺め、自然を支配します。日本人は中国人同様、下に居て上を眺め、遠くの景色を見て、景観と

aussi grands que Meiji-jingu sont traversés de routes, d'autoroutes, de métro, et pleins de monde, ne sont pas l'endroit de calme et de réflexion.

Meiji-jingu, palais impérial et Temple d'Ise font penser à un poème de Baudelaire : « Là, tout n'est qu'ordre et beauté, luxe, calme et volupté. »

Ici, c'est jardin créé par Kobori-Enshu, près de Nagoya, qui illustre toujours cette même idée, que vous avez tellement loin de mariage entre œuvre humaine avec la nature. C'est un magnifique exemple de shakkei, paysage capturé. Cela montre à la fois votre caractère face à la nature, humilité ; paysage japonais se regarde toujours de bas à haut, tandis que paysage occidental du haut vers le bas. L'occidental qui est inspiré par concept biblique considère que la nature est totalement à son service. Par conséquent, ils vont sur la montagne et regardent d'un haut, parce qu'ils la dominent.

Vous Japonais, comme les Chinois, vous êtes en bas pour regarder haut, pour voir le paysage de loin et faire corps avec ce paysage ; tous les jardins sont comme ça. En plus, occidentaux construisent dans le beau paysage grands châteaux qui dominent le paysage. Comme en Allemagne partout il y a des châteaux qui dominent le paysage et le Rhin. Ici, personne n'a idée de construire château, on va construire une cabane que fera maison de thé pour faire cha-no-yu ; il faut entrer par un petit trou pour trouver toute petite espace. Humilité à faire corps avec le paysage.

C'est la même humilité à Ryuan-ji, où on ne voit pas en même temps tous les rochers, C'est un lieu artificiel qui symbolise mystère

一体になります。どの庭もそのように出来ています。更に西欧人は美しい景色の中に景色を支配する大きな城を建てます。ドイツのライン地方ではどこでも城が景色とライン川を支配しています。日本では城を建てず、小屋を建てて茶室にします。小さい穴から小さな空間に入り、謙譲で景観と一体になるのです。

竜安寺も同じ謙譲精神で、全ての石を同時に見られません。それは、全てを見ることが出来ないという真理を象徴する人工的空間です。フランス人は、普通なら、屋根に上って全ての石を同時に見たいと思います。これが、日本のエキゾティスムです。



苔寺 Koke-dera (temple de mousse)

同じく信じ難いことは、植物界では最も低位な普通で変哲のない苔をこの苔寺に見に来て、終日俳句を考案したり、苔の美しさを愛でることです。かくも物質主義になった今日、もののあわれや単純さにかくも執着している皆様は立派な宝を持っています。これを理解することは人類に役立ちます。

日本料理も同じで、道元禅師は「苺菜よく聖胎を養う」と言いました。

魔法の島に生きるための日本人のもう一つの形は日本至る所にある温泉です。そこで人々は幸福に放心し、自然に完全に溶け込み、一体になっています。

山梨、勝沼の江戸末の浮世絵です。左に富



竜安寺 Ryuan-ji

que l'on ne peut voir tout. Ryuan-ji est insupportable pour un Français ; normalement on a envie de monter sur le toit pour voir tous les rochers ensemble. C'est l'exotisme japonais.

Même chose pour ce temple incroyable où les gens viennent à rester la journée pleine pour faire haiku et admirent la beauté de mousse qui est plus ordinaire, plus vulgaire dans le règne végétal, qui n'est rien du tout matériellement. C'est ce qu'on a besoin aujourd'hui qui est tellement matérialiste, alors que vous êtes tellement attachés à la fragilité et la simplicité de choses.

Vous ne savez pas quel trésor que vous avez et combien vous pouvez aider l'humanité pour faire comprendre cela.

Même chose dans votre cuisine. Dogen a dit « Prenez une feuille plus ordinaire de chou et cette feuille de chou devient le demeure splendide du Bouddha. »

Une autre manière japonaise de vivre dans l'île enchantée, c'est onsen, qui se trouve partout au Japon, qui est l'endroit de voir les Japonais épanouis, heureux, car ils sont complètement immergés, c'est la nature elle-même pour faire corps avec.

C'est la scène d'estampe de fin d'Edo de



勝沼の浮世絵 Ukiyoe (Yamanashi)

士、葡萄棚の下にはお酒を飲み幸福な人々。雪見酒、月見酒、花見酒。季節に応じ友と飲み食いし、美しい景色を見て、環境の中で大きく心を開くのです。



ベアトの撮った写真 photo de Béato

明治直前横浜でベアトの撮った写真はその対極です。二人の日本人が客と料理人を演じるスタジオ撮影で、5本の葡萄酒の瓶が見えます。二人が全く幸福に見えないのは、西洋習慣を人工的に導入し始めた時の、舞台写真だからです。今では、東京や大阪のレストランで、昼時、ご婦人方が葡萄酒を全く日本の方法で楽しみ、日本文化に取り入れています。フランス人の持たない洗練さと詩的感覚に驚きます。

Katumuma à Yamanashi. On voit Fuji à gauche et les gens heureux de boire sake sous budo-dana. Cette pratique comme yukimi-zake, tsukimi-zake, et hanami-zake, idée de boire et manger avec des amis, dans la saison, et de trouver le bon paysage pour avoir grand épanouissement du coeur dans l'environnement.

Voici le contraire de la photographie prise juste avant Meiji par photographe Béato à Yokohama, qui montre dans un studio une mise en scène théâtrale de deux Japonais jouant client et serviteur dans un restaurant arrosé de cinq bouteilles de vin. Regardez ces Japonais qui ne sont pas heureux du tout, parce que c'est le début de l'introduction artificielle de coutume occidentale. Aujourd'hui, quand on va dans les restaurants à Tokyo ou à Osaka à midi, les dames boivent vin par méthode tout à fait japonaise pour faire entrer le vin dans la culture japonaise. Je suis étonné de voir plus en plus s'exprime le sentiment plus raffiné et poétique que les Français n'ont pas.

Nous allons passer maintenant à la France. J'ai choisi gastronomie française, on va parler un peu de paysage et du vin pour montrer que nous avons la différence aussi que point commun. Aujourd'hui il y a beaucoup de cuisiniers français qui font provocation pour créer la mode en faisant n'importe quoi, disant les choses un peu snob en mélangeant à l'idée de cuisine française les idées venues d'Amérique de sud et d'Afrique, des choses confuses. Heureusement la plupart de grands cuisiniers français, en particulier qui ont l'étoile sont respectueux d'environnement, de nature et de produits de saison. Cuisiniers comme Paul

次はフランス美食に関して、景観と葡萄酒に関して、日仏の共通点と差異を話します。今日多くのフランス料理人が、南米やアフリカから来た混乱した考えをフランス料理の考えと混ぜて、勝手な方法でスノッな流行を作っています。幸いに、特に星を持っている偉大なフランス料理人は環境、自然、季節の産物を尊重しています。写真の世界に有名なポール・ボキューズは自分のリヨン地方の産物に価値付けを大に行い、自分の菜園で昼食のための人参やサラダを選び、マルシェや生産者のところで、野菜、魚、肉などの質の選択に大きな注意を払います。



ジョルジュ・ブランの料理の本 livre de Georges Blanc

これはすこし日本の精神です。日本にはないモリーユという春に取れる茸の料理ですが、ブルゴーニュのシェフ、ジョルジュ・ブランの料理の本の写真で、クリームとフォワグラと白葡萄酒でファルシにしたモリーユの料理に、村、畑の囲い、花、春の田園の景色を組合せています。これはオーギュスタン・ベルクの価値付けた和辻哲郎の風土に似たところがあります。



ポール・ボキューズ Paul Baucuse

Baucuse que vous voyez sur cette photo, très connu dans le monde, ont toujours énormément fait pour mettre en valeur les produits de leur région lyonnaise. Voyez dans son jardin potager et en train de chercher les carottes et salades pour repas de midi, et toutes les grandes attentions à la qualité qu'il choisit aux marchés ou chez les producteurs de légumes, de poissons, de viandes, etc.

Et voyez ça, ce pourrait être un peu dans l'esprit des Japonais. C'est un plat de champignon qu'on appelle morille en France, qu'on n'a pas au Japon. Chef de Bourgogne qui s'appelle Georges Blanc présente, dans son livre de cuisine, plat de ce champignon avec le paysage de printemps. Voici le champignon farci à la crème, foi gras et vin blanc, avec la vigne en feuille, village, haie de clos, fleurs et champs de printemps, saison de morille. C'est quelque chose qui ressemble un peu à fudo qu'Augustin Berque a mis en valeur.

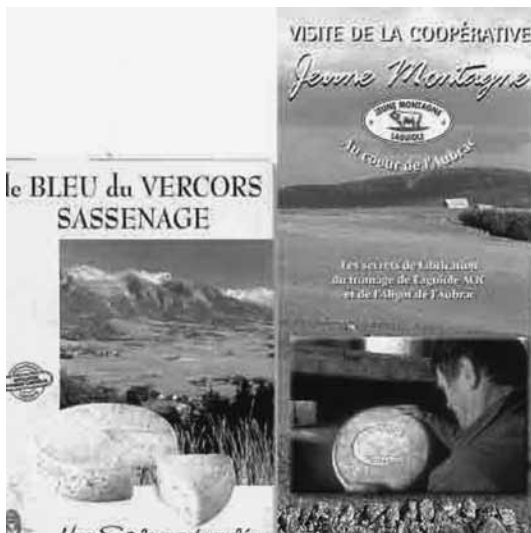
Un autre exemple de lien entre paysage et gastronomie, comme un moyen de mettre en valeur l'esprit de lieu. C'est ce paysage de



ジュラの景色 paysage de Jura

もう一つ、まさに場所の精神を価値付ける風景と美食の組合せ。フランス東部スイス国境に近いジュラ地方の景色。美しい山、もみの木の森、牛、農家。草の質が良いので優秀な牛が育ち、コンテのチーズが出来ます。豚を飼育し、もみの木のおが屑で農家の煙突で薫製にされた高級な腸詰めが出来ます。チーズや腸詰めを、ジュラの白葡萄酒と、友達と美しい景色の中で味合うのは、茶の湯同様、美しい経験です。

テロワールの産物と言えるもう一つのチーズ。中央高地の南、コース地域で青カビ、ペニシリウムで独特の味がつくロックフォールです。羊、草、気候、そして自然洞窟での熟



ヴェルコールのブルーチーズとカンタルチーズの広告
publicités de bleu de Vercors et de fromage de Cantal

Jura, à l'est de France à la frontière suisse. Avec belles montagnes, forêt de sapin, vaches et les maisons des paysans. L'herbe est très bonne dans cette région pour faire fromage de Comté de très grandes vaches françaises et du petit-lait. On élève cochons pour faire charcuterie de merveille, qui sont fumées dans la cheminée de ferme avec sciure de sapin. Saucisse et fromage, avec vin blanc de Jura, consommés dans le beau paysage avec bons amis, qui est l'expérience aussi belle que cha-no-yu.



ロックフォールの洞窟 cave de roquefort

Alors un autre fromage qui doit beaucoup à son terroir. Dans les Causses au sud du Massif Central, c'est roquefort qui prend le goût particulier grâce à champignon microscopique, pénicillium. Ce fromage exprime vraiment l'esprit de lieu de cette région, grâce aux animaux, brebis, à l'herbe, au climat et puis à l'affinage dans cette cave.

成などで、この地域の場所の精神を表すものです。

場所の精神を価値付ける考えで興味ある二つの広告。ヴェルコールのブルーチーズとカンタルチーズに夫々の地域の景色を組合わせている。



ボン・ベルジュラック Bon Bergerac

オート・サヴォワ地方の村、ボン・ベルジュラック。冬期スポーツ基地の適地だが、村民はそれを望まず、小さなスキー場を作っただけで、農業と景観で立派に暮している。サヴォワ地方の冬期スポーツ基地は米国、カナダ、また日本のアルプスと同じくコンクリートやリフトや機械の塊で、場所の精神は消滅しました。観光では、場所によって異なる風景や住民や雰囲気がなければ意味がない。これは特に海浜観光では問題で、フロリダ、バハマ、セーシェル、マルディブ、タイなどは、みな、浜もホテルも食事も同じで差がない。他と同じ所へどうして飛行機に乗って行くのか？



プロヴァンスの住宅 maison en Provence

Voilà deux publicités qui se trouvent intéressantes dans cette idée de mettre en valeur l'esprit de lieu ; bleu de Vercors avec le paysage de Vercors derrière, et fromage de Cantal avec le paysage du pays.

Un village de Haute Savoie, Bon Bergerac, qui pourrait être une grande station de sport d'hiver et les habitants ne l'ont pas voulu, donc ils ont fait une petite station pour garder l'agriculture et le paysage, et ils vivent très bien. Les stations de sport d'hiver en Savoie sont en général identiques aux Etats-Unis, Canada, même à la région centrale des Alpes Japonaises, avec beaucoup de béton, de téléphériques et de montées mécaniques, et l'esprit des lieux a disparu.

Quand on fait du tourisme, il faut trouver le paysage, les gens et atmosphères différentes des pays, sinon ce n'est pas la peine de faire tourisme. Je pense que c'est le problème en particulier pour tourisme sur le plage ; Floride, Bahamas, Seychelles. Maldives, en Thaïlande, ce sont même plage, même hôtel, même nourriture, il n'y a pas différence. Pourquoi prendre avion pour aller aux endroits qui sont les mêmes qu'ailleurs ?

Voilà une maison en Provence qui est parfaite de l'esprit de lieu, par ses matériaux et techniques, qui a été restaurée confortable à l'intérieur, mais qui conserve à la fois la tradition et l'esprit du paysage. Alors que dans le sud de France, maintenant, on a construit tellement d'immeubles en béton qui ne respectent absolument pas l'esprit de lieu et quand on est dans son appartement on voit la mer mais on voit aussi tout autour plein de béton.

場所の精神において、材料でも技術でも完璧なプロヴァンスの住宅。内部は快適に修復されているが伝統と景観の精神を保存している。一方、南フランスでは、場所の精神を完全に無視したコンクリートの建物が多く造られ、部屋から海が見えても、回りはコンクリートだらけ。

日本人も同じことをしています。私は一月前、熱海の旅館に泊まりました。美しく古く快適で駅に近いが、コンクリート塔状建物に囲まれ、新幹線が二分おきに前を通るのです。残念です。

次に葡萄畑と葡萄酒の例。現代農業では葡萄栽培と葡萄酒が場所の精神を良く表すからです。



アララット山と葡萄畑 vignes au pied de Mont Arrarat

葡萄酒愛好家には感激的写真。前に見えるアララット山の麓のアルメニアの世界一古い葡萄畑。ここで、7千年前に農業が生まれました。聖書でご存知のノアの箱船が大洪水の



バニユルス Banyuls

Vous faites, vous Japonais, un peu la même chose, j'étais il y a un mois dans un ryokan à Atami, ryokan très joli, ancien, confortable, tout près de la gare, mais entouré de tours de béton et shinkansen passait toutes les deux minutes dans la chambre, c'est quand même dommage.

Alors quelques images de la vigne et du vin, parce qu'aujourd'hui dans le domaine d'agriculture moderne, c'est sûrement par la vigne et le vin qu'on peut exprimer mieux l'esprit de lieu.

Pour tous amateurs du vin, ce paysage est réellement très émouvant, parce que c'est le paysage qui montre les plus vieilles vignes du monde en Arménie au pied de Mont Arrarat. Là où, il y a sept mille ans, on a inventé agriculture. Et, c'est là sur le Mont Arrarat Noé a échoué son arche après le Déluge et là, il a planté la vigne. Et archéologie a trouvé que le premier vin a été produit dans cette région il y a sept mille ans.

Et voilà un bel exemple de vignoble très original par son paysage mais aussi par techniques de culture et par goût du vin. En Roussillon, Catalogne française, Banyuls. J'ai très belle expérience d'avoir bu le vin avec mes étudiants devant ce paysage et la mer au fond. Cette expérience ressemble à cha-no-yu.

Créer le beau paysage est aussi possible aujourd'hui à partir de la nature, et voici, le beau vignoble tout à fait nouveau d'il y a trente ans en Nouvelle Zélande. Les vignerons ont su créer le beau paysage et beau lieu qui n'est pas vide, parce que à l'intérieur la Nouvelle Zélande était

後流れ着き、葡萄を植えたのです。考古学はここで7千年前、最初の葡萄酒が出来たことを見つけました。

これは景観の点で、また栽培技術と味の面で独特の葡萄畑。フランスカタロニア地方ルシヨンのバニユルスです。学生とこの景色で海を眺めてこの葡萄酒を飲むのは、茶の湯と同等です。

今日、自然から美しい景観を作ることは可能で、ここでは30年前、新しく美しい葡萄畑が作られました。ニュージーランドの内陸部は殆ど空白ですから、この葡萄畑は自然と葡萄と葡萄酒の関連を作る努力です。砂礫の堆積の上に作られた葡萄畑は、美味しい葡萄酒と美しい景観を生みました。



ブルゴーニュの葡萄酒職人
vignerons bourguignons

葡萄酒の景観にはテロワールだけでなく、人もあります。生産者と消費者です。ブルゴーニュの葡萄酒はこの葡萄職人の気持ちを知らずに理解出来ません。これは美しい村ヴェルソンのカーヴに居る葡萄酒職人です。

シャンパンはかなり工業製品で、年間一億本作られます。しかし景観を利用している会社はわずかです。クルグ社の一銘柄では、生産地ペルメリード村の美しい葡萄畑の景観を示し、このうまい酒を高価に売ろうとしています。景観と葡萄酒の関連は重要です。

最後に、日本とはかなり違った管理をされているパリの遺産です。これはフランス人の神社にあたる聖なる遺産で、フランスカトリ



ニュージーランドの葡萄畑 vignoble en Nouvelle Zélande

totalelement vide. Et voici le nouveau vignoble qui montre souci de créer le lien entre nature, vigne et vin. Vignoble a été créé à cause du cailloutis (causse d'éjection) et vin est très bon et en plus le paysage est beau.

Alors, le terroir n'est pas seulement le paysage du vin, mais aussi les gens ; les producteurs et les consommateurs. Je crois qu'on ne peut comprendre le vin de Bourgogne sans comprendre la mentalité de vignerons bourguignons. Je montre un vigneron dans son cave de beau village de Versson.

Champagne, c'est un produit assez industriel ; cent millions de bouteilles produites par an, mais qui n'utilisent pas beaucoup de paysage, sauf quelques maisons. Krug utilise pour sa cuvée, paysage et marque de sa provenance,



クルグ社のシャンパン Champagne Krug

ックの中心です。フランスで最も来訪者が多く、年 1400 万人。12 ～ 3 世紀に建てられ、外観は非常に古いのですが、実際は多くの石



パリ、ノートルダム寺院 Notre-dame de Paris

が、傷んだり、革命で彫像も含めて壊されたため、取り替えられています。昔のものはステンドグラスで、一部取り替えられても、大部分は昔のままの 13 世紀のガラスです。フランス人はこの建物は全部本物だと思っていますが、それは嘘です。半面、伊勢が全く新しいと考えるのも間違いです。

クリュニ博物館

一部にローマ時代や中世の材料が残ると言え、実際は 19 世紀に殆どやり変えられました。フランス人はそれを好まず、中世の建物だと言っています。

写真は 17 ～ 19 世紀と中世の建物の混合ですが、観光客にはこれが中世のパリです。

これも 18 ～ 19 世紀とコンクリートの混合です。

有名なパリのサン・ミッシェル大通りはローマ時代の道筋に 19 世紀にオースマンが全て作ったものです。

同じ大通りのリュクサンブール公園前。思い出を持つ人には、場所の精神の名所です。臭覚（栗を焼く匂い）、味覚、聴覚（学生の声、

très beau clos de vigne au milieu de village Permédide et voulant faire très grand champagne très bon et très cher. Donc il est très important de créer le lien entre le vin et le paysage.

Pour terminer, patrimoine parisien qui est géré d'une manière tout différente de patrimoine japonais. Ici, c'est Ise jinja des Français, Notre-dame de Paris, le monument plus visité de France, quinze millions de touristes par an. Patrimoine sacré, c'est aussi le cœur de catholicisme français. Construit au 12~13 siècle, donc en apparence très ancien, mais en réalité beaucoup de pierres ont été changées, parce que abîmées, cassées par la Révolution, même ses statues, donc il n'y a pas tellement de morceaux d'origine ; plus original, ce sont des vitraux dont quelques morceaux remplacés, mais plupart originaux et authentiques et la verre date réellement du 13^{ème} siècle. Et les Français pensent ce bâtiment tout original, mais ce n'est pas vrai. Même chose à Ise, qui est tout nouveau, mais ce n'est pas vrai non plus.

Musée de Cluny

Morceaux romains et de moyen âge, mais en réalité tout a été retraits au 19^{ème} siècle. Mais les Français ne veulent pas s'en rappeler, c'est donc bâtiment de moyen âge. Le mélange des 17,18,19^{ème} siècles et de moyen âge, mais pour les beaucoup de visiteurs, c'est le Paris de moyen âge. C'est aussi 18~19^{ème} siècle et béton, tout ça est mélangé. Ce Boulevard Saint Michel, très connu à Paris a été totalement construit au 19^{ème} siècle par Haussmann, sur ancien tracé romain.



クリュニ博物館 Musée de Cluny



パリの街角 quartiers de Paris



パリのサン・ミッシェル大通り
Boulevard Saint Michel à Paris

栗売りの声)、視覚、触覚（熱い栗）の五感が触発されます。

そして最後に、人類が場所の精神を歌い上げる心を失わないこと、そしてフランス人と日本人、更に世界の全ての人々が、それぞれ異なった場所の精神の交流を続けることを願うものです。有り難うございました。

Même boulevard devant le jardin de Luxembourg avec marchand de marrons chauds, qui est haut lieu de l'esprit de lieu qui fait chanter cinq sens, odorat(marrons brûlés), goût, bruit(étudiants et cris du marchand), paysage et touche (marrons chauds) .



リュクサンブール公園前
devant le jardin de Luxembourg

Voici, pour terminer, j'espère que l'humanité perdra pas le goût de faire chanter l'esprit de lieu, et que nous allons continuer, entre Français et Japonais et aussi entre tous les peuples de la Terre, à échanger nos visions différentes de l'esprit de lieu. Arugato-gozaimasu.

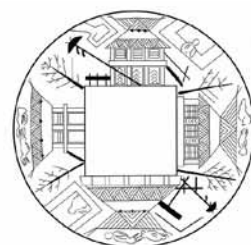
伊勢－空間の聖化 Ise, sacralisation d'espace

早稲田大学教授 中川 武
NAKAGAWA Takeshi, professeur de l'Université Waseda

私はカンボジアのアンコールワットで仕事をしてるが、この他にアンコールトムのバイヨン遺跡があり、これはカンボジアの伊勢神宮に当たる所である。十年前ワシントンで世界銀行が開いた会議「世界における聖地」で伊勢に対する関心が最も高かった。これは、ものに刻まれた遺産をそのまま保存する西欧的な考えに対し、更新による伝統の継承の持つ意味の特殊性にある。まさにこの式年造替の問題である。



家屋文鏡



図化した家屋文鏡

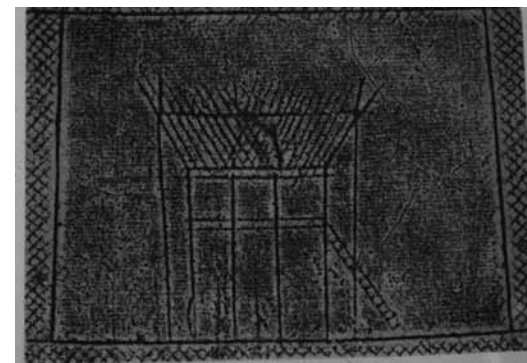
三世紀前半の王権授受の儀礼証であったと言われる家屋文鏡。中央の空間は米を表し、上の高床式の倉に収められ。右の平置式の建物で酒にされ、下の竪穴式建物で王が神と共に食し、左の望楼に登って国見をする。これで、3～4世紀には、高床から竪穴式までの建築の形式が既に成立していたことが分かる。

2世紀の銅鐸に描かれた切妻の高床式建物。棟持柱が見える。

Je travaille pour la conservation d'Angkor Wat, il y a aussi Ankor Thom où se trouve vestige de Bayon qu'on peut appeler Temple d'Ise de Cambodge. A la conférence sur "les lieux saints du monde" organisée il y a dix ans par Banque Mondiale, Ise était le lieu le plus intéressé. Parce qu'Ise est très particulier d'être conservé par reconstruction, tandis que la notion occidentale est de conserver la matière originale des patrimoines. Il s'agit justement de gosengu que nous discutons ici.

Ce miroir de bronze de début troisième siècle, considéré comme signe d'investiture de royauté; au milieu se trouve riz, qui est emmagasiné dans le bâtiment en haut du style takayuka (plancher soulevé), puis, dans le bâtiment droit à terre plate, devient sake que le roi goûte avec dieu dans le bâtiment bas du style tateana (demi enterré) et finalement le roi regarde son pays du haut de bâtiment gauche. Ce dessin prouve que takayuka et tateana existaient à cette époque comme style de bâtiment.

Bâtiment de style takayuka à pignon, dessiné sur cloche en bronze du 2^{ème} siècle. On voit munemochi-bashira (colonnes hors mur portant le faîte)



銅鐸に描かれた高床式の建物

登呂遺跡（4～5世紀）の穀倉を表す埴輪。高床、板壁に棟持柱。漏斗状の穀物取入口。



登呂遺跡の高床式倉庫の復元図 Section d'un grenier de style takayuka restitué à Toro

聖地はどのように出来て来たか？その例として、沖の島。日本と朝鮮の交易路上の聖地。島に神を招聘し祭り、人々は上陸して祭事を行ったり、遠くから遥拝した。そこに神殿が作られて行く。



埴輪に出てくる牧草倉庫

Poterie funéraire en forme de grenier de takayuka (vestiges de Toro, 4-5 siècle) Mur d'azekura (planches de bois emboîtées) et munemochi-bashira. Ouverture en entonnoir sur le toit pour introduire les grains.



沖ノ島 Okinoshima

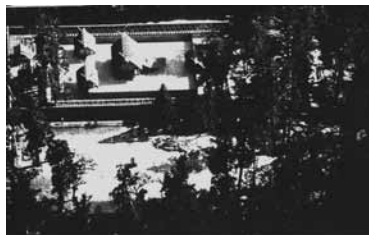
Comment lieu saint est né? Un exemple d'Okino-shima sur la route de communication Japon - Corée. Dieu invité au sommet de l'île, fêté par les gens débarqués ou vénéré de loin de mer. Et on construit le sanctuaire.



内宮 Naigu

ところで伊勢は。森の中の聖地に豊受神を祭る人々と東国経営を考える大和朝廷の関係が出来る。土地の伝統と大和の文化の交換が行われて行く。文化の交換は支配、被支配のアジア的形態である。式年造替を通じて、大和との文化の交換が行われて行く。土地の魂、砂利道を歩く静けさが示す森は交換の大きな要素であった。

ここに結界があることが重要である。森、五十鈴川、鳥居、それに多くの玉垣の結界の中に聖なる地が出来て来る。



内宮の敷地 terrains de Naigu



遷宮後の敷地 terrain de l'absence

式年造替の形。並列して輪番に使われる敷地。休閒敷地には真の御柱だけが残る。小屋の中のそれが本当にあるか誰も知らない。神の降臨の座の象徴であり、隠される故に価値が高まり、その中に何があるかは意味を持た

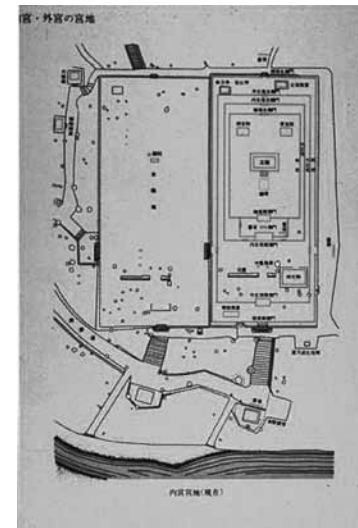
Et à Ise. Les gens qui avaient vénéré dieu Toyouke dans la forêt ont été liés à la cour impériale de Yamato (Nara) qui désirait l'exutoire vers l'est. L'échange de tradition d'Ise avec la culture de Yamato, comme une forme asiatique entre dominant et dominé. Gosengu est aussi l'échange culturel. Le génie de lieu, vivant dans la tranquillité qu'on sent même aujourd'hui en marchant sur les graviers de sentier est le principal élément de l'échange.

Lieu saint a besoin de confins; d'abord par la forêt, par la Rivière Isuzu-gawa et torii, et puis par plusieurs clôtures.

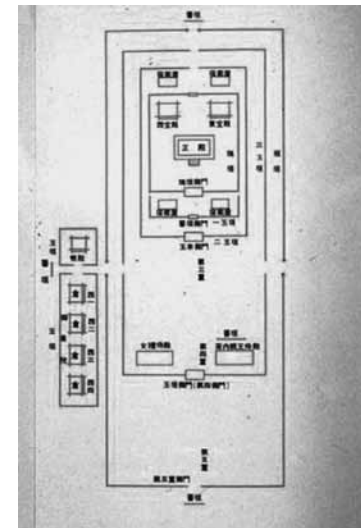
Forme de gosengu: deux terrains contigus et équivalents à employer alternativement. A l'espace de l'absence demeure toujours une minuscule cabane pour cacher le résidu de shinno-mihasira (pilier central), symbole de siège divin, qui devient précieux par être caché et l'existence même du pilier, que personne ne voit, n'a plus de sens.



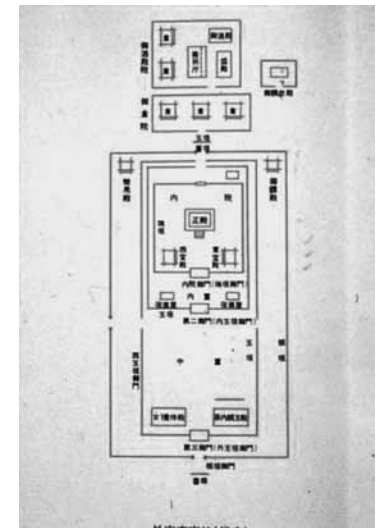
真の御柱 cabane de shinno-mihasira



内宮敷地 terrains de Naigu



内宮配置 plan de Naigu



外宮配置 plan de Gegu

ない。

社殿の配置は何時頃決まったかは不明。内宮外宮はすこし異なり、内宮に食物を収める神の外宮では御餉殿の存在が重要である。



瑞垣、玉垣、板垣 Clôtures

結界は内から、瑞垣、玉垣、板垣と開放的なものから閉鎖的なものに向かう。これは、古墳やその回りに並べられる埴輪の結界と同様である。内と外との関係を作りながら靈魂を閉じ込める。

敷地には大地の象徴として白い石が敷き込まれる。

神殿の構造は校倉の壁と屋根の荷重を支える棟持柱である。板壁の時代になかった装飾や高欄などは仏教建築の影響も受けている。

On ne sait pas l'origine des plans des Temples d'Ise. Il y a la différence entre Naigu et Gegu. Dans le dernier, les bâtiments de Mike-den (service de repas) sont importantes, car le dieu d'ici sert l'aliment à la déesse de Naigu.

L'espace délimité de confins. Clôtures autour du sanctuaire, mizu-gaki, tama-gaki, ita-gaki, prennent forme plus fermé, vers l'extérieur. La délimitation enferme l'esprit divin en formant la relation intérieure- extérieure, aussi dans le cas des tumulus; forêt, fossé et les rangées de poteries cernant sépulcre.

Graviers blanc du sol symbolisent la Terre. Comme structure des bâtiments: mur d'azekura et munemochi-bashira, ces derniers recevant le poids du toit. On sent l'influence de l'architecture bouddhite en décoration et balustrade. La proportion,



前方後円墳 Tumulus en forme de trou de serrure



古墳の埴輪囲い poteries cernant sépulcre de tumulus



白石が敷かれた地面 terre revêtue de graviers blancs



内宮 Naigu

各部の釣り合いも変し、床は高くなり、低くなり、また高まり、この高さにおさまった。比例釣合の問題である。この意識的総合化は

comme la hauteur de plancher, longtemps recherchée, arrive finalement à l'idéale, par suite de synthèse conscientieux et insolite de forme pour atteindre cette extrémité de raffinement. Les maintes reprises de reconstruction de gosengu ont transformé des simples greniers originels de takayuka



内宮本殿 Bâtiment principal de Naigu



内宮付属建物 Bâtiments accessoires de Naigu

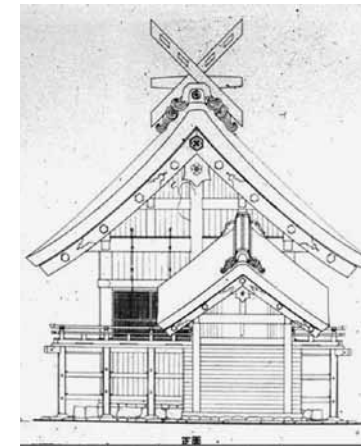
異様なもので、ついに洗練の極みに至る。本来高床倉庫に過ぎなかったものを単純で美しいものにして来たのは正に造替の繰り返しによる。また、造替は信仰や聖なるものの概念を普及させ、御陰参りも含め、皆が認める形や感覚は流通しやすいものになる。

我国は外から移入された形態を使いこなし、洗練し、同化して来た。大仏様到来の時も同じであった。しかし、この適用、同化、洗練の能力は新しい創造を阻害する面もある。大陸で出来るような新しいものを作ることが出来なかった。

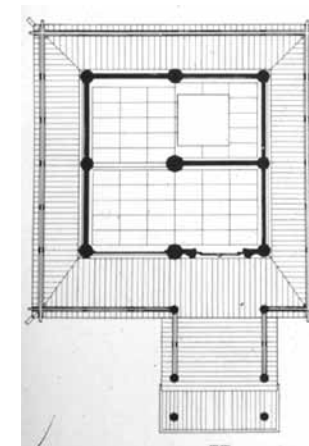


出雲大社

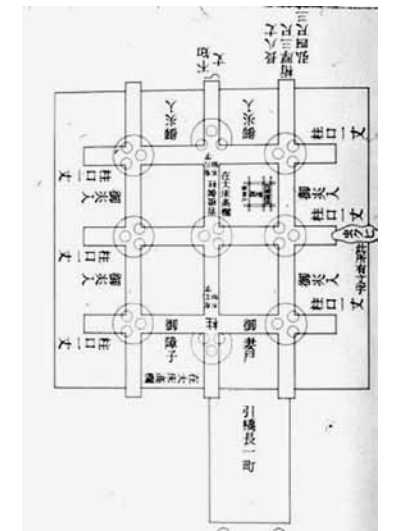
伊勢と対比される出雲。江戸期の現建物は棟高16丈だが、古来から大きさと高さで伊勢と競って来た。神殿の平面は妻の片側から入って曲り、神座は横を向く。中央に真の御柱が構造的意味を持って残っている。古図で



出雲大社正面 façade du Temple d'Izumo



出雲大社平面 plan du Temple d'Izumo

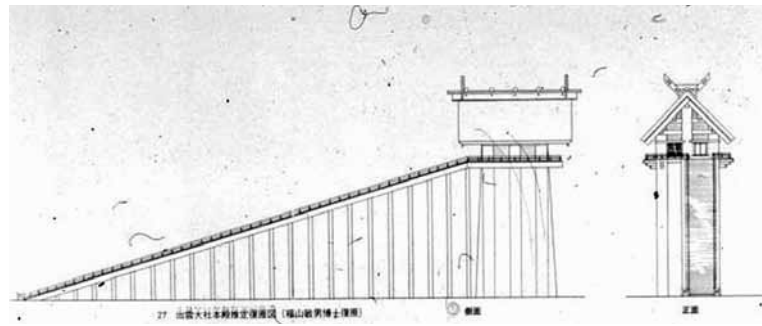


出雲大社古図 archive des charpentiers

en un chef-d'oeuvre architectural. Gosengu a aussi généralisé la notion de foi et de sainteté, et grâce aussi d'okage-maori (*1), la sensibilité à la forme d'Ise circule l'Archipel est reconnue unanimement.

Le Japon a assimilé et raffiné l'architecture importée du continent. Dont un exemple est le style daibutu (*2). Ce talent d'application, d'assimilation et de raffinement entrave d'autres côtés la création de chose nouvelle.

Izumo (*3) est souvent comparé à Ise. Même que son Temple actuel ait la hauteur du faite de 16m, il a rivalisé longtemps de hauteur du bâtiment avec Ise. L'entrée du sactuaire est asymétrique sur la face de pignon et le siège divin se tourne de côté. Au milieu, sinno-mihasira (pilier central) reste comme collonne porteuse. Une archive des charpentiers désigne les colonnes du Temple comme trois bois rassemblés, dont un résidu enterré a été découvert il y a dix ans. Ce fait prouve l'existence avant 1200 AD. du Temple qui avait la hauteur de 48m où l'on montait par un long escalier.



古代の出雲大社想像図

l'image de l'ancien Temple d'Izumo

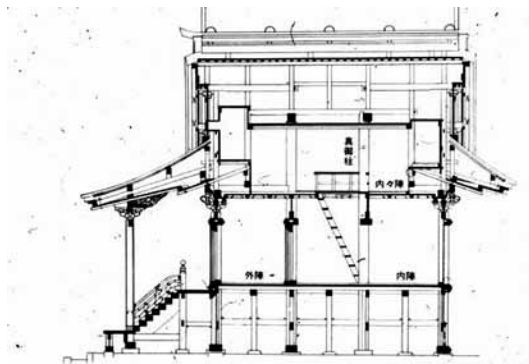
三本重ね柱が描かれているが、十年程前にこの柱の残りが地中から発見された。鎌倉時代まで棟高48丈あったと言う話を裏付ける。長いきざ橋を登った高みに社殿があったという図である。

notes:

- *1: Okage-mairi: visite de remerciement. Le declin du pouvoir impérial a été recompensé par le culte populaire d'Ise. A l'époque d'Edo, plus de dix pourcents de la population du Japon visitait chaque année Ise.
- *2: Début 13^{ème} siècle, lors de la reconstruction du bâtiment de grand Bouddha de Todaiji à Nara, style daibutu (grand Bouddha) a été importé de la Chine, lequel serait vite absorbé dans le style traditionnel.
- *3: Izumo (Département de Shimane) rivalisait dans l'antiquité, de pouvoir et de civilisation, avec Nara. Mais le gouvernement du dernier l'a soumis et incorporé les dieux et les legendes d'Izumo dans les mythes impériaux.



神魂神社 Temple Nutama



貫前神社断面 Section du Temple Nukizaki

討論会

Discussion au Séminaire à Tokyo

伝統から未来

Tradition et Futur

前パリ・ソルボンヌ大学総長 ジャン・ロベール・ピット氏

NPO 法人日仏景観会議 代表 宇田 英男氏

(財)明治村館長 名古屋大学名誉教授 飯田喜四郎氏

早稲田大学教授 中川 武氏

神宮式年造営庁技術総監 中村 光彦氏 (進行)

J-R PITTE

UDA Hideo

IIDA Kishiro

NAKAGAWA Takeshi

NAKAMURA Mitsuhiro (modérateur)



Professeur PITTE

Les temples d'Ise ne sont pas bien liés à l'aménagement de la ville. La relation des patrimoines avec leur alentour; mauvaise à Mont-Saint-Michel, bonne à Vezelay et réussie en Athènes, par exemple. A Ise, seulement les lanternes en pierre le long de la route indiquent l'existence de Naigu. Il faut un urbanisme plus sévère. Au Japon plusieurs fois reconstruit après destructions, l'absence d'urbanisme depuis Meiji conduit les gens à penser pouvoir faire n'importe quoi. Kyoto, seule ville japonaise à caractère historique, a construit sa Gare hideuse. En France, l'architecture moderne a raté; grands ensembles avec vandalisme et la Défense à Paris. Au delà du quartier de gratte-ciel de Shinjuku, il y a un quartier très agréable d'habitation et de commerce mélangés. La décoration intérieure des bâtiments modernes, bureaux ou restaurants, est excellente au Japon, mais pas d'urbanisme! C'est mystère! Il y a beaucoup de routes, mais pas d'assez de rues. Il faut des quartiers à l'échelle humaine où les

討論会では伊勢市のまちづくりについての意見が交わされた。以下に発言者ごとの意見をまとめる。

ピット教授:

神宮が町の整備と繋がっていない。文化財と周辺の関係でフランスではモンサンミッシェルは悪く、ヴェズレーは良い。アテネは成功している。伊勢では参宮道路の灯籠の列しか繋げるものがない。

都市計画を厳し



くする必要がある。日本は何度もの災害から再建されて来たが明治以後、厳しい都市計画規制がないので何でも作って良いという考えがある。

京都は唯一歴史的特徴を維持しているがひどい駅を建てた。

フランスでも現代建築は失敗し大団地は不良資産でパリのデファンス地区も良くない。

新宿副都心の向こうに住居や商業が混合した非常に気持ちのいい地域がある。日本の現代建築は事務所でもレストランでも内部は優れたものが多いのにどうして都市計画は成功しないのかが不思議だ。

日本には道路 (route) はあるが街路 (rue) が不十分。人間尺度で歩行者と車が共存出来る町を作る必要がある。

宇田 NPO 法人代表：

我々は 1999 年から日仏景観会議で、フランスの制度を紹介して来たが、日本とフランスの制度の差が大き過ぎる。

都市計画策定や建築許可の権限を地方自治体が持っているフランスに比べ日本の自治体には土地収用権など制度上の武器がないので、都市計画は非常に難しい。

大きな都市問題は自動車である。「仕分け」など新しい動きが出て来たので 20 年位後には良くなるかもしれない。

飯田先生：

灯籠の列は難物で地震時などの問題がある。ヨーロッパには残さねばならないものが日本の約 20 倍あり、新しい都市は作りにくい。

平成 5 年に出来た登録保存制度は希望が持てるが補助金の額が少ない。全体として日本はヨーロッパの十分の一から百分の一しか保存に金を使っていない。

日本列島の長さにおさまるヨーロッパには北から南まで異なった伝統都市があるが我国では戦後、どの都市の中心も同じ形になってしまった。

hommes et les automobiles peuvent co-exister.

UDA:

Nous avons présenté depuis 1999 aux Colloques Franco-Japonais sur le Paysage les systèmes français de l'aménagement urbain. Mais l'écart est trop grand entre France et Japon; là, les compétences d'urbanisme et de permis de construire sont transférées aux collectivités locales, tandis que chez nous les municipalités ne peuvent faire grand chose par manque des compétences et des outils comme droit d'expropriation. Le plus grand problème c'est automobile. Mais nouvelle tentative comme "siwake" (*1) nous donne l'espoir dans vingt ans à venir.

Professeur IIDA:

Les lanternes en pierre sont casse-tête, illégalement construites sans sécurité anti-séisme. L'Europe a des choses à conserver vingt fois plus que Japon et les villes sont difficiles à reconstruire. Le système d'enregistrement de conservation institué chez nous en 1993 donne l'espoir, sans toutesfois assez de budget. Grosso-modo, Japon n'emploie que d'un dixième à un centième d'argent des pays européens pour la conservation. En Europe du nord au sud, dans la distance égale à l'Archipel du Japon, se trouvent les villes de différents caractères, tandis que chez nous les centres-ville sont devenus partout pareils après la Guerre. Jadis à Kyoto, on a pris consentement des gens du quartier avant de reconstruire la maison, mais pas aujourd'hui. On a supprimé aussi la limite de 30 mètres de la hauteur du bâtiment autour du Palais Impérial à Tokyo. Il faut revenir au point de vue de la vie joyeuse des habitants.

京都では家を建て替えるとき近所の了解を取って歩いたが今この習慣は廃れた。

皇居周辺の 30 メーターの建物高さの制限もなくなった。住民の日常生活が楽になる視点を取り戻す必要がある。

中川教授：

伊勢市長が話された神宮お木曳きの住民参加は希望が持てる。生成りのまちづくりは高く付くが頑張りたい。幕末外国人は日本が美しいと誉めた。戦後、生活実感と全体の形の間に断絶が出来、これが混乱を生んだ。底辺からやり直すほかない。住民参加、地場の力、もの作りが大切だ。

出席者からの発言：

伊勢神宮は住民のものではない。伊勢と共にある生活の伝統が重要である。

中村技術総監 (司会者として)：

伊勢市は生成りをコンセプトとしたまちづくりを進めている。国立市の係争などの後、我国にも景観法が制定された。これらを踏まえて、神宮の伝統を生かした伊勢市のまちづくりについての考え方を伺いたい。

伊勢市都市計画課谷口課長：

景観法以前から景観条例を作っており平成 2 年にまちなみ保全事業を始め市民と共に条例を作っている。戦前の神都計画は神宮関係施設整備事業として進め、灯籠の問題も検討中である。昭和 50 年以降、伊勢市駅前が寂れて来た。大型店や車の問題が原因である。年間 500 万人の入込み客も、この関係で外宮が内宮の三分の一になった。駅前と外宮を



Professeur NAKAGAWA:

On a l'espoir dans la participation des habitants à la fête de trainer les bois dont Mousieur le maire a parlé. L'aménagement urbain sur l'esprit kinari (naturel sublimé) vaut la peine même s'il coûte cher. Avant Meiji, les étrangers trouvaient le beau Japon, mais après la Guerre, le hiatus entre notre sentiment vécu et la forme de ville a engendré le désordre. Il faut recommencer à partir de la base: la force du lieu, l'esprit à créer.

Un auditeur:

Le Temple d'Ise ne s'appartient pas aux habitants. Ce qui est important, c'est la tradition des habitants vécus avec le Temple.

Professeur NAKAMURA

(comme modérateur)：

La municipalité d'Ise procède sur l'esprit de kinari à l'aménagement de ville. Après le procès de paysage à Kunitachi (*2), la loi du paysage est née. Parlez s.v.p. de la politique municipale.

M. TANIGUCHI

(chef de la section d'urbanisme de la ville d'Ise)：

Avant la loi du paysage, nous avons créé en 1990 l'ordonnance municipale sur paysage en délibéré avec les habitants. Le projet de la ville sacrée d'avant la Guerre est actuellement l'opération d'aménagement autour du Temple, dans laquelle on traite la question des lanternes. Depuis 1975, le quartier de la Gare d'Ise-shi est en déclin, à cause des supermarchés et d'automobile. Le Temple Geku n'attire qu'un tiers de cinq millions de visiteurs annuels. Donc un projet privé de réaménagement vise à relier la Gare et Geku. On a mis kinari dans l'ordonnance municipale du mai. Autour d'Oharai-machi, la hauteur limitée à dix mètres des bâtiments



結ぶ駅前民間再開発が始まる。生成りのまちづくりは5月に策定した伊勢市景観計画に入れた。おはらい町の周りは木造を基本に、高さを3階に制限し切妻、妻入り、日本瓦葺きと伝統的外壁仕上を使い、自然な素朴さを基本とする。また河崎地区などの町屋の保存に力を入れて行く。



学術総合センター Sogo Gakujutu Centre

丁田氏（倉吉市からの参加者）：

倉吉市の中心には伝統的建造物保存地区があり入込み客は30万人あるが若い人が住まないことが問題である。地方は高齢化と少子化で収縮しつつあり倉吉市5万広域13万の人口も十年後には4万と8万に減るだろう。美味しい食べ物もあり人々は呑気に気楽に生活している。神社など文化財を核に都市を再構成するべきだと気付いていても、成果が現実に追いつかない。

essentiellement de bois, avec toiture en tuile à pignon et mur traditionnel, simple et naturel. On réhabilite aussi les maisons traditionnelles des quartiers Kawasaki et des autres.

M. CHODA:

Au centre-ville de Kurayoshi, denkengun (*3) avec 300 milles visiteurs annuels, a problème de l'exode des jeunes foyers. La vieillesse et la baisse du taux des enfants vont diminuer actuelle population de la ville de 50 mille (la région 130 mille) à 40 (80) dans dix ans. Mais avec bonne alimentation, nous vivons agréablement à loisir. On est conscient de la nécessité de réaménagement urbain autour des noyaux de patrimoine comme temples. mais la réalité dépasse notre effort.

notes:

*1: Fin 2009, le Parti Démocrate a fait une longue séance publiquement ouverte du tri pour diminuer le budget rectificatif d'Etat pour 2010 et cette première tentative a gagné une bonne réputation.

*2: Procès contre un bâtiment haut de habitation collective à la ville de Kunitachi dans la Préfecture de Tokyo (2001-2004). La question était la suprématie de la loi standard du bâtiment et l'ordonnance municipale du paysage. La cour suprême a donné finalement le gain de cause au promoteur en réfutant le droit du paysage des habitants une fois approuvé par le tribunal de Tokyo. Cet événement a amené le ministère des TIT à instituer la loi du paysage, qui cependant, demeurant aux niveaux de l'ordonnance locale comme procédés, n'est pas directement liée à permis de construire.

*3: Groupe des bâtiments traditionnels à conserver dont la zone est approuvée par l'Agence Nationale des Affaires Culturelles sur le consentement majoritaire des habitants.

見学

Visite

山田工作所の見学

Visite d'étude de l'Atelier à Yamada de Gosengu

本部理事 石井 隆

ISHII Takashi, conseiller, ZenNihonKenchikushiKai

昨年暮、伊勢で全日本建築士会及びNPO 法人日仏景観会議主催の「伊勢」が開催され、12月21日に伊勢神宮を特別参拝した後、宇治山田にある山田工作所を訪れた。

場内の御案内をして頂いた式年造営庁技師宇津野金彦氏より、式年遷宮で使われる御用材の切り出し、育成、加工、古用材の再利用等の状況についての説明を受けた。

宇津野氏は昭和63年から遷宮の御造営工事に携わっており、前回の第61回遷宮の御造営工事に携わり、平成25年の第62回遷宮の御造営工事に向けて取り組んでいる。

山田工作所の広大な土地には、貯木場の堀がいくつもあり、堀の端には製材所、加工場等の作業場が数多くあり、多くの大工が加工に勤しんでいる。

『遷宮の御用材』

遷宮の御用材を伐り出す山は御杣山といわれている。御用材は、第1回遷宮から鎌倉中期頃までの約600年間はこの宮域林から供給出来ていた。しかし、適材が不足してきたため、近隣諸国に御杣山を移し、点々と場所を替えていき、江戸中期頃まで続いたが、それ以降は木曾山に移り現在に至っている。

よって、遷宮諸祭の最初の祭りである山口祭は、かつて御杣山であったこの宮域で斎行され、山の入口に座す神をお祭りして、作業の安全無事を願った。

御杣山より伐り出される御用材は全て桧材で、現在この木曾桧は秋田杉、青森桧葉と共に日本の三大美林材と言われている。

天然林を伐採していくと、資源はどんどん

Le 21 décembre 2009, après la prière à Naigu, les participants du Colloque ont visité l'Atelier à Yamada, sous le guide de Monsieur UTSUNO, ingénieur de gosengu. L'atelier est composé de plusieurs grands bâtiments autour des fossés-canaux.



製材所で説明を受ける commentaire dans la scierie

Production des bois

Les bois nécessaires pour gosengu avaient été fournis jusqu'au 13^{ème} siècle de la forêt d'Ise, qui, de plus en plus épuisée, a été remplacée des autres forêts de la région et finalement depuis 18^{ème} siècle de la forêt de Kiso (Département de Nagano) qui est le lieu le plus important de la production de hinoki, parallèlement à Akita pour cèdre et à Aomori pour sapin.

La plupart des bois employés pour gosengu est hinoki, l'espèce la plus appréciée pour bâtiments, dont les ressources nationales sont actuellement assez limitées. Le Temple d'Ise a donc commencé la planification

減少し、その跡地に桧を植林していても天然桧という資源は徐々に減少していくので、今後将来この木曾山から供給を受けられるという保障はないわけである。

したがって、かつて御杣山であったこの宮域林で桧を育成していかねばならなくなり、神宮では大正12年に御用材の育成計画を造ったとのことである。

計画通り、大正時代末から本格的に桧の造林を始めたため、現在では植えてから80年以上経った桧の人工林になっている。

一般の民有林や国有林だと、桧の人工林は植えてから60、70年経つとすべて伐ってしまうが、この宮域林は植えてから200年の育成計画を立てており、この間は間伐などいろいろ手入れをする。

御用材としては80年以上の桧が使われるが、宮域林で全てまかなうには今後120年にかかるとのことである。

今回、御用材全材積の2割程度は宮域林の桧の間伐材が使われる予定で、これは七百年ぶりにこの宮域林より桧を供給するということである。今後は自給率を上昇させ、将来はこの宮域林から100%供給出来ることを目標としているとのことである。

一回の遷宮で使用される木材は、平成5年の遷宮では、13,807本の原木が必要であったとのことである。また、材積に換算すると約1万m³で、一番太い径級122cmの材は御正殿の扉板に使い、一番長い長級13mの材は干木に使うとのことである。

直径40cm、長さ5～6mのものが一番多く使われている。

『宮域林での御用材の育成』

神宮の宮域林の面積は、5400haで伊勢市面積の3分の1ほどになり、東京世田谷区の面積とほぼ同じである。宮域林の半分は天然林であるが、御用材を生産する桧の人工林が2500ha、全面積の46%にあたる。

桧人工林の施業の特徴は4つあり、1つは、最も素性が良く太る可能性のある木には、二



貯木場 bois et graviers



製材所 Visite de scierie

d'autarcie de hinoki à Ise.

L'exigence de bois de gosengu est spéciale. Ordinairement les bois pour les constructions ont l'âge de vingt à trente ans, tandis que gosengu emploie hinoki à diamètre plus de 20cm, dont la plupart de 40cm et le plus gros à 122cm. Pour cela, l'arbre de hinoki doit avoir l'âge de plus de quatre-vingts ans et la planification d'autarcie est donc pour deux cents ans.

Le précédent gosengu a utilisé environs 14 mille rondins, soit 10 mille mètres cubes comme volume.

La superficie totale de la forêt d'Ise est 5,400 hectares dont la moitié forêt artificielle à planter hinoki, avec d'autres espèces latifoliés pour assurer la diversité écologique, et la santé et la solidité du sol. La densité des arbres est d'abord 4,000 plants par hectare, qui serait éclaircie dans

重ペンキを巻き、次にその可能性のある木には一重ペンキを巻き、可能性があまりない木は、無印のままとする。2つ目は、受光伐を行うことである。二重ペンキを施した木を早く太らせるため、周りの木を間伐し太陽エネルギーを最大限に利用する方法である。3つ目は、桧と広葉樹の混交林を目指しており、一般の民有林や国有林と較べて、間伐を盛んに行うため、その空き地に広葉樹がどんどん生えてくる。その広葉樹も一緒に育てるので、桧と広葉樹の混交林状態になっている。それによって水源を涵養したり土砂流出を防いだり、あるいは生物多様性に富んだ森林生態的にもバランスの取れた山になるということで、混交林を目指している。4つ目は、長伐期ということで、植えてから200年間育てる。その間、間伐を繰り返していき、植えるときには、1haの中に4000本の桧の苗木を植えるが、100年経つと200本にする。200年経つと100本にする。その100本の桧は、太い木ですと胸の高さの直径が140～150cmになるうかと思われる。細い木でも60cmになる。こうした手法は、あまり民有林も国有林もやっておらず、神宮独自の施業方法である。

『墨掛け』

木曾御用材はその昔、桑名辺りから船で大湊まで運び、内宮の場合は五十鈴川をさかのぼって、そこから川曳きをして内宮の作業所へ運んだことから、現在でも川曳きを行っている。それから外宮の陸曳きは、大湊まで船で運んできたものを、さらに宮川をさかのぼり、その途中から陸曳きをして外宮の作業所へ運んだことより、今の陸曳きに繋がっている。

伊勢まで運ばれた御用材は、山田工作所の近くにある堀の水面に浮かべて、干割れ防止をしながら保存し、順次製材している。

宮域林の桧材は、山田工作所に持ち込まれるが、人工林であるため、比較的傷みやすく、すぐに製材するようにしている。



御用材自然乾燥 séchage naturel de bois



製材所の御用材 bois dans la scierie

cent ans à 200 hinokis et dans deux cents ans à 100 futaies qui auraient diamètre de 140~150cm. Au prochain gosengu 20% de bois viendra de la forêt d'Ise.

Transport des bois

Hinoki de Kiso est traditionnellement amené sur mer, de Kuwana à Ominato d'Ise, et en remontant la Riv.Isuzu-gawa jusqu'à Naigu, mais actuellement sur routes sur camion ou par traîner-les-bois. Les bois sont stockés dans les fossés-canaux de l'Atelier à Yamada.

Préparation des bois

Les bois, soit arrondis et polis comme colonnes, soit équarris comme poutre ou planche sont mis pendant 5~10 ans dans les dépôts séchoirs. Pour la finition comme des membres de bâtiment de ces bois, qui suffisamment secs et traités des mesures

製材にあたり、桧の良材丸太は、年輪が良くわかるように両木口が切り落とされ、どここの部材で、どのように木取りするかを墨で印す墨掛けをする。

全体がわからないと墨掛けは出来ないため、熟練した大工の勘が必要であり、重要な仕事である。

5年、10年すると木に狂いが生ずるので、角材、正八角形に機械カンナで面落として、心持ち材に背割して、釘かすがいを打ち込み、乾燥倉庫に保管される。最終的に手カンナで丸柱に仕上げる。又木の長さは尺杖を使用して切断する。

『建築の造営に関係する祭り』

昨年の11月3日に新たに架け替えた宇治橋の渡り始式が終り、これから本格化する。

遷宮では、三十あまりの祭りや行事が行われるが、建築の造営に関係する祭りとしては、以下のようなものがある。

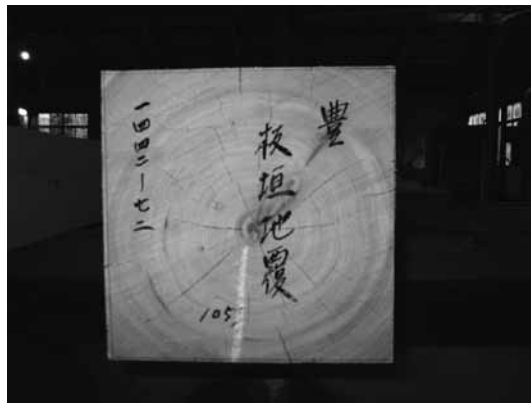
- ・平成18年4月 木造始祭
- ・平成20年4月 鎮地祭
- ・平成24年3月 立柱祭、上棟祭
- ・平成24年5月 檐付祭（萱葺き始め）
- ・平成24年7月 薨祭（飾金物付け）
- ・平成25年8月 お白石持行事
- ・平成25年9月 御船代奉納式

『大工職人』

工作所には現在15名程の大工が御用材の加工に従事しているが、最盛期には65名ほどになる。一応、地元中心であるが、地元に限っているわけでは無く、各地からの大工にも来てもらっている。

チームを組み、遷宮工事を二回経験したベテランと、一回経験者の中堅と組んで新人の指導に当たっている。また、大工班としては、ベテラン2人、中堅4人の計6人で1チームを作り、8班の編成を組んでいる。

御造営が終わると解散するが、ベテランは伊勢に残って仕事をしている。伊勢市内の造り替えのものが10年分あるからである。



部材の木口 coupe des bouts de bois



製材された角材 équarrissage de bois

pour empêcher la déformation, quinze charpentiers travaillent toujours, qui sont aidés, aux temps les plus occupés, par une cinquantaine d'adjoints.

Chaume des toits

Pour couvrir les bâtiments des temples, roseaux sont collectés par une centaine d'ouvriers aux prairies d'Ise (99 hectares), en six ans pour assurer la quantité nécessaire de gosengu (soit 23,000 bottes de 40cm de diamètre). Il y a à Ise deux couvreurs de chaume expérimentés du précédent gosengu et trois jeunes sont en train de formation. Aux temps les plus occupés, une quinzaine de couvreurs de chaume sont recruté d'autres régions du

『萱葺職人』

御社殿を建てるには屋根に使用する萱が必要であり、これは民間からは入手することは出来ないため、神宮には萱山がある。度会町の川口に、約99haの萱山があり、一回の遷宮で、直径約40cmの束で23,000束の萱が必要となる。年平均4,000束を採れば、6年間で24,000束となり、必要な量は確保出来る。100人程度で山で伐採しており、そのうち、海人が70～80人伐採に携わっている。

現在、萱葺工は高齢化しているため、文化庁でも状況改善の為に萱葺工を育てており、神宮でも、前回経験した萱葺工が2名残っている。その他にも20代の青年3名を将来萱葺工にしようと育てている。

萱葺工も最盛期には18名から20名程必要になる。従って、全国の萱葺工達と交流しながら技術交流を進めている。また、銅板の板金工も6名程になる。

『解体材の再利用』

古殿舎を解体したうちの3分の1程が全国の神社関係を中心に無償で再利用されている。前回では、阪神淡路大震災で被災した神社にも分けている。また、3分の1は神宮で摂社末社の修繕や造り替えなどに再利用する。残りの3分の1は、地中の部分や雨ざらし、日ざらしになる部分で腐朽のため、棄却される。

『最後に』

遷宮の御造営工事に長年携わった経験から、宇津野氏は「遷宮とは、古代日本人の自然観、生命観の建築的・宗教的な表現である」と考察しており、また、「宮づくりは、人づくりにつながり、人作りは宮づくりにつながる」と痛感されたとのことである。

植林により自然が蘇り、木材も必要に応じてリサイクルして大事に使われる。自然の循環のすばらしさを伊勢神宮式年遷宮は、私達に教えてくれている。



製作場 atelier



萱の加工場（大和張の外壁） dépôt des roseaux

Japon.

Recyclage des bois

Après gosengu, un tiers de bois des anciens bâtiments est distribué gratuitement à d'autres temples shintoïstes du Japon, autre tiers employés pour la réparation des bâtiments d'Ise et le dernier tiers, trop abîmé ou pourri, sera jeté.

Monsieur UTSUNO a parlé comme conclusion « gosengu est l'expression architecturale et religieuse des pensées sur la nature et la vie des anciens Japonais » et « bâtir les temples et former les hommes sont liés. » Ressuscitation de la nature par boisement, recyclage des matériaux…… gosengu nous enseigne la merveille des cycles de la nature.

世界に共有すべき価値のために Valeur à Partager avec le Monde.

NPO 日仏景観会議代表 宇田 英男

UDA Hideo, représentant, NPO Colloque Franco-Japonais sur le Paysage

未来の美しい景観のための重要な要素、木造建築を主題とした会議を、全日本建築士会と共同して、前年の日光・田母沢会議に引き続き開催出来ました。

式年遷宮技術総監の中村光彦先生の御発意で、伊勢において、御遷宮の世界に稀な伝承方式をつぶさに学び、同時にそれが人類全体に持つ意義を考える貴重な機会となりました。

飯田喜四郎先生の遺産の心とモノの両面への率直なまなざし、JR ピット先生の広大な時空間、中川武先生の空間形態の意味の追求、夫々、貴重なお話に、伝統を未来に繋げて行く伊勢市の担当者の発表を加え、大勢の参加者皆様との討論の共鳴とご批判の響きの中で、会議が終わってから、その意味を問い続ける重要な結果が得られました。

世界のどこにでも貴重な心とモノの遺産があり、それを新しい文明に向かって高揚して行かねばなりません。

この点で伊勢の特殊性は世界に通じます。また、この方向での近年のフランスにおける進歩も同様です。このような価値の交換で、現在形成中の地球を救うための国際合意が強化されます。

今回の会議で得られた友情の輪を、明日の美しい景観と環境形成に繋げて行きたいと熱望する次第です。

Sur le thème de construction bois, élément important pour la formation paysagère de demain, nous avons eu le bonheur de réaliser, en continuation du Colloque à Nikko-Tamozawa de l'année précédente, cette fois, Colloque à Ise, grâce à l'initiative de Professeur NAKAMURA Mitsuhiko, président du Conseil Technique pour gosengu et à la collaboration avec ZenNihon KenchiukushiKai. C'était une précieuse occasion d'étudier en détail cette coutume unique au monde et en même temps de réfléchir sur la notion de l'importance que celle-ci présente pour toute la humanité.

Les conférences à contenus riches ; regard honnête sur l'esprit et le matériel de tradition de Professeur IIDA, la grande envergure dans l'espace et le temps de Professeur PITTE et la poursuite du sens de forme d'espace de Professeur NAKAGAWA, avec la manifestation de la volonté des responsables de la Municipalité d'Ise pour relier l'aménagement urbain avec la tradition, tous, dans la réverbération de sympathie et de critiques des participants de la discussion, ne nous laissent pas même aujourd'hui finir vite ruminer les résultats.

N'importe quel coin de la Terre a précieux patrimoines spirituels et matériels à valoriser dans la nouvelle civilisation, et dans ce sens la particularité d'Ise est à partager avec le Monde. Aussi les récents progrès en France dans cette direction. Par cet échange des valeurs, nous pouvons consolider le consentement mondial qui est en train de se former pour sauver la Planète.

Nous désirons ardemment activer ces nouvelles et anciennes amitiés de nos colloques pour la création de meilleur environnement.

(社)全日本建築士会の歩み

Sur ZenNihonKenchikushiKai

昭和 32 年 5 月 15 日、建築士法の一部改正が行われ、念願の民主的で革新的な全日本建築士会設立の準備が進められ、初代会長に故今和次郎先生（早稲田大学教授）を迎え、昭和 33 年 9 月 6 日設立総会を開き発足しました。昭和 34 年 3 月 6 日建設省から社団法人の認可を受け、故竹内芳太郎先生（元東京教育大学教授）を会長に選出し、20 有余年の指導をいただき、歴代会長の許に一貫して「在来工法の継承と新工法の開発を通じて木造建築における我国唯一の建築文化の殿堂」として発展する組織団体を目指してまいりました。

全日本建築士会の基調

- ◇ 匠は人、人は心！
- ◇ 住み手とともに建築を！
- ◇ 在来工法の継承と開発をつうじ
木造建築文化の殿堂を！
- ◇ 働きながら学び、すぐれた建築を！
- ◇ 建築界の民主化と革新を
地域住民とともに街づくりを！

このため本会の使命達成、そして会と会員を結ぶきずなとして会誌「住と建築」を発行してまいりました。会誌は建築技術講座、法政令、建築界ニュース等の編集により会員のニーズに応えるとともに、付属機関として建築道具館の開設、中国との連帯と技術交流など幅広い活動を行い、技術技能と建築文化の向上、公益活動の充実発展に努力してまいりました。

また、建築士制度に関し行政への提言及び図書の発行、研修会、公開講座イベントの開催、中央建築技術研修所を設置し、建築士制度の普及と建築理論ならびに一、二級建築士および昭和 58 年の法改正により新しく創設された木造建築士の受験準備講座等を開講し、向学心に燃える研修生から多数の合格者を出してきました。

このような本会の歩みは建築士の知識と教養の充実・向上・建築の実際の経験と学問的知識を結びつけることによって建築士の社会的地位の向上と併せ、住み手と共に歩む建築運動の 50 有余年の歴史であります。

Ce nom signifie l'Association Pan-japonaise de Kenchikushi, dont le dernier mot est breveté d'Etat comme technicien du bâtiment, y compris architecte puisqu'au Japon titre officiel d'architecte n'existe pas.

Après la réforme de la loi de Kenchikushi, ZenNihonKenchikushiKai a été fondé le 6 septembre 1958, comme une association démocratique et innovatrice, sous la présidence de KON Wajiro, grand historien des habitats populaires, et approuvé par le Ministère de la Construction comme une société civile avec la personnalité juridique.

C'est la seule organisation qui a poursuivi le développement de la culture architecturale par la transmission et l'amélioration des techniques de construction bois, dont les devises ;

◇ l'art c'est l'homme, l'homme c'est le coeur.

◇ bâtir avec les habitants.

◇ devenir le temple de la culture de la construction en bois par la succession et le développement de la technique traditionnelle.

◇ apprendre en travaillant pour le meilleur bâtiment.

◇ aménager les villes avec les habitants à travers démocratie et réforme du milieu de construction.

Notre organe « Sumai to Kenchiku (habitat et architecture) », dont le numéro spécial est ce présent compte-rendu, est un important moyen de la liaison de nos membres, publié tous les mois avec informations sur techniques, législations et mouvements du milieu de construction. Nous avons continué plus de cinquante ans les activités à utilité publique ; maintien du Musée d'Outils, échanges internationaux, propositions à l'Etat concernant le système de Kenchikushi, diverses cours pour améliorer le niveau de techniques et de connaissances de nos membres et des candidats pour l'examen de Kenchikushi.

Nous allons renforcer nos activités sur notre histoire de demi-siècle pour mieux harmoniser notre association avec les demandes sociales des habitants.

日誌	3月	
	4日・地人書館社来会	17日・新公益法人会計基準説明会出席
	8日・「住と建築」誌編集委員会	18日・井上書院来会
	9日・市ヶ谷出版社来会	23日・東京都職業訓練事業説明会出席
	12日・首都大学東京本部訪問 (専務理事・オープンユニバーシティ 建築士講座打合せ)	26日・ワンハンドレッドドリームズ社来会 (建築士講座打合せ)
	15日・新建新聞社来会	29日・(社)建築業協会来会 30日・オーム社来会

東京都支部住宅エコポイント講習と定時総会の開催		
全日本建築士会、東京都支部では下記のとおり、住宅エコポイント講習と定時総会を開催しますのでお知らせします。		
記		
日時	平成22年4月17日(土) 18時～20時30分	第2部 全日本建築士会東京都支部 第38回定時総会開催 平成22年度事業計画他
場所	全日本建築士会 3階大工道具館ホール	第3部 懇親会 2部終了後懇親会を開催します。なお懇親会参加費は2,000円とします。
第1部	住宅エコポイント制度講習 工務店のための住宅エコポイント申請から即時交換制度有効活用	*参加を希望される方は、住宅エコポイント制度講習会の資料の準備がありますので本部士会事務局に16日までに申し込まれたい。

編集後記	
本年も新年を迎えたと思ったのも束の間のこと で、早くも各地での桜の開花宣言を聞く春の到来 シーズンを迎えました。	
4月は年度の変わり目でもあり、本会の活動も新 たな展開を始動する時期でもあります。そのような 中で、改めて大きな節目からの出発点となる本会設 立51年目の記念事業としての日仏景観会議―伊勢― ―を振り返り、今後の活動の礎とするためにも、本 号はそれらを詳細に記録した特別号として編集する こととしました。	
このため、本号の編集にあたっては、各々の講演 や報告を詳細に読み返し、伊勢と東京とで2日に渡 る会議で、一部重複するような部分は整理し、全体	
の流れができるだけ分かりやすくなるように再構成 しつつ、出来るだけ忠実な記録となるように意を注 ぎました。本号は日仏景観会議―伊勢―の記録集と しての意味のみならず、広く伊勢神宮及び式年遷宮 を今日的視点から改めて考え、地域の伝統とまちづ くり、景観の問題という極めて今日的な問題を考え ていく上での一助ともなることを意図しました。	
会員及び各方面の読者諸氏の御参考になれば幸い です。	
最後に本号の全ての仏語訳に献身的な努力を傾注 されたNPO法人日仏景観会議代表(本会理事)宇 田英男氏に改めて敬意と感謝の意を表します。	
(M・N)	

住と建築 2010年4月号	
発行	平成22年4月1日
発行人	社団法人全日本建築士会
編集人	企画編集委員会
編集協力	全国建設労働組合総連合
発行所	社団法人全日本建築士会
	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-23-2
	内藤ビル301 TEL.03(3367)7281 FAX.03(3367)7283
振替	00100-3-46964
印刷所	株式会社 藤印刷
	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-13-1
	TEL.03(3262)8641 FAX.03(3262)8643
広告取扱	三田企画株式会社
	〒162-0822
	東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン1110
	TEL.03(3267)7497 FAX.03(3267)7498